筑波大学附属図書館
年報2010年度

目次

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2010

C O N T E N T S

1 館長挨拶

2 トレンド
東日本大震災・電子ジャーナルと筑波大学附属図書館

4 フォーカス（2010 年度の特徴的な活動・事業）
1）中央図書館耐震改修工事
2）東京キャンパス大塚地区校舎改築に伴う大塚図書館改築工事
3）中央図書館の過去・現在（耐震改修工事竣工記念）
4）中央図書館ラーニング・コモンズ検討WG報告
5）知の集積と ARES
6）つくばリポジトリとその周辺
7）特別展
8）近未来書籍カフェと図書館キャラクター
9）Reading バトンと学長・理事の本棚

15 資料紹介
鈴木虎雄関係史料（陸羯南書簡ほか）

16 職員の活動
1）出張報告
2）学外研修／シンポジウム等における発表・講師、論文発表等
3）職員研修会

20 トピックス
サービス・活動、見学・来訪者、オリエンテーション・講習会、研修・シンポジウム、会議、その他

22 メディアにみる附属図書館
1）学内外のメディアに掲載された当館に関する記事
2）図書館の刊行物

23 所蔵・公開資料の記録
出版・放映・Web 上に掲載された所蔵・公開資料

24 附属図書館ボランティアの活動

25 組織図・歴代館長

26 統　　計

1 館長挨拶

中央図書館 エントランス

筑波大学附属図書館長
波多野　澄雄

踏み出した一歩

「筑波大学附属図書館年報2010」をお届けします。平成22年4月より附属図書館長となりました。よろしくお願いいたします。2010年度は図書館が更なる高度化を果たすために、新たな事業やサービスに一歩踏み出した年となりました。その足跡を振り返ってみます。

まずは、大学の事業である「知の集積と発信」プロジェクトへの参加という一歩です。それまでの附属図書館の事業やサービスは、図書館単体で行ってきましたが、大学の事業の一環という形で「研究業績登録支援システム（"Achievement of Research Enrollment System"，以下"ARES"）の開発に携わりました。プロトタイプを2009年度に開発していましたが、2010年度に、上記プロジェクトのシステムの一部と位置づけられ大幅な機能拡張を行ったものです。図書館のスタッフは、図書や雑誌の書誌情報を中心とした図書館業務のデータベースの開発や運用の経験はありますが、今回の様な業績データの登録を主としたシステム開発は初めての経験でした。なかでも仕様の作成が大きな作業となりました。実際にこのツールを使用するのは、研究者である教員となります。職員がわからないところは、先生方の助力を頂きました。この場をお借りしまして、お礼を申し上げます。現在システムが出来上がりましたが、「知の集積と発信」プロジェクトの中で、更なる改良等が必要になるかと思います。関係者各位のご意見を聞きながら、最適な機能を発揮することを願っております。

新たなサービスの一歩としては、大学祭である雙峰祭期間に中央図書館集会室において、図書館情報メディア研究科　宇多・松村研究室との共催で、「近未来書籍カフェ」を出展したことが挙げられます。この企画は大学祭の中での雙峰祭グランプリ（最優秀賞）を獲得するなど、好評を得た企画となりました。学生・教員ならではの発想と行動力に、職員も大きく刺激をうけました。企画の一つである「IMAGINE THE FUTURE 学長・理事の本棚」は、好評のため、貸出サービスを付加して、中央図書館2階メインカウンター前にて、継続的な企画として実施しました。新たなサービスへのチャレンジと共に、今後のサービスを企画する一歩となりました。

また、まだ一歩とは言えませんが、「学習支援」についても動き出しました。附属図書館の第２期中期計画の具体的施策に「学生の学習の場としての機能」の「高度化」があります。その機能を実現するために附属図書館内に「ラーニング・コモンズ検討WG」を設置し、検討してきました。職員研修会での図書館情報メディア研究科の教員による海外のラーニング・コモンズの報告会の開催や、WGメンバーによる国内大学図書館の見学とその報告・勉強会の実施等を通し研鑽を積んできました。また、国内の識者を招聘し、関東甲信越地区国立大学図書館協会の研修会の一環として、学習支援に関するシンポジウムも開催し、附属図書館はもとより、国内の図書館関係者の多数の参加がありました。2011年度中には、ラーニング・コモンズの人的サービスの試行を開始する予定です。どのようなサービスが可能なのか、試行錯誤ではありますが、一歩を踏み出す予定です。

最後に、東日本大震災について触れなければいけません。3カ年に及びました中央図書館の耐震改修工事が終了し、本来なら4月からは皆さんの目の前に、新しい図書館空間が待っている筈でした。中央図書館では、正にその最後の図書の戻し作業中に東日本大震災に見舞われました。その瞬間、図書館の電気が切れ、あっという間に蔵書の６割方の図書が落下し、足の踏み場もない光景となりました。体育・芸術図書館はガラスが割れ、天井から通風口が落下し、１階の書架が倒壊しました。医学図書館では天井の排水管から水が漏れ、地震で落下した図書に水が掛かり水損するなど、図書館の被害は大きなものでした。しかし不幸中の幸いで、どの図書館も利用者・職員に怪我なく、避難誘導できたことに心から安堵したところです。仮定の話をしたら切りがありませんが、「もし、耐震改修工事をしていなかったら?」と思うと、本当に恐ろしくなります。現在、早期の復旧を目指して職員一同、一丸となって取り組んでおります。ご不便をおかけいたしますが、何卒、ご了承いただければと存じます。また、今回の震災で被災された皆様、そのご家族の方々にも、心よりお見舞い申し上げます。

（2011年3月31日）

東日本大震災・電子ジャーナルと筑波大学附属図書館

1.東日本大震災

2011 年 3 月 11 日（金）午後 2 時 46 分、東日本大震災が発生しました。被害は1都1道 16 県に及び、死者行方不明者は 2 万人を超えています。この大震災でお亡くなりになった方々に心から哀悼の意を表します。

この「トレンド」は例年、その時々の大学図書館を巡る話題について触れてきました。しかし、今回は東日本大震災における筑波大学附属図書館の被害状況と復旧について主に記し、加えて重要な学術情報基盤である電子ジャーナルについて付記します。

1.筑波大学附属図書館の被害

図書館では震災直後、直ちに状況の把握に努めました。図書館内においては利用者、職員とも被害がないことを確認しました。人的被害がなかったことは幸いでしたが、全蔵書の 6 割に相当する合計約 150 万冊が書架から落下してしまいました。その他、施設・設備の被害は以下のようになっています。

a. 中央図書館

①ガラス製たれ壁の破損、破片の落下。

②電動集密書架の破損等。

③図書資料の被害

約 110 万冊が書架から落下しました。特に 3 階から 5 階の資料の大部分が落下し、動線の確保も困難な状況でした。

b. 体育・芸術図書館

施設の被害は全館の中で最も酷く、地震直後から立ち入りが危険な状態でした。3月15日に災害対策本部より応急危険度「要注意」の判定がありました。主な被害は以下のとおりです。

①内部ガラス壁や内壁ボードの破損と破片の落下、亀裂。

②天井からの空調噴出し口落下、吊下げ蛍光灯の落下、破損。

③書架の転倒、閲覧机の損傷。

④約 19 万冊の図書資料が書架から落下または転倒した書架の下敷きになりました。

c. 医学図書館

①天井部温水管の破損。

②一部天井の破損・落下等。

③約 11 万冊が書架から落下しました。また天井部温水管の破損による漏水で、医学基本図書（約 2 千冊）が水漏れの被害に遭いました。

d. 図書館情報学図書館

施設設備には大きな被害はありませんでしたが、約 9 万冊が書架から落下しました。

e. 大塚図書館

施設設備には大きな被害はなく、一部の資料が書架から落下した程度でした。

2.被害の復旧

a. 全館

震災の被害や学内のライフラインの寸断のため、3 月 12 日以降、附属図書館は全館で臨時閉館となりましたが、3 月 14 日に附属図書館公式 Twitter アカウント（@tsukubauniv_lib）を立ち上げるとともに、3 月 16 日に附属図書館ホームページ（http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/）の臨時版を立ち上げ、利用者に被害状況や図書館利用に関する情報発信を開始しました。多くの学生から「復旧のためにボランティアとして参加したい」との暖かい声が寄せられました。また、国立大学図書館協会等から寄せられた被災地大学の学生・教職員に対する他大学図書館の利用支援状況の紹介を行うなど、可能な限りサポートを行いました。

ライフラインの復旧や図書館の復旧作業の進捗により、3 月 29 日には体育･芸術図書館を除く各図書館の部分開館を開始し、あわせて附属図書館ホームページを通常版へ戻しました。

医学図書館と大塚図書館は 3 月 29 日から、図書館情報学図書館は 4 月 8 日から、中央図書館も 5 月 12 日にはほぼ平常通りの開館に至りました。

また、体育・芸術図書館も 5 月 16 日から臨時窓口での出納

書架倒壊（体育･芸術図書館）

方式での図書貸出サービスを再開しました。比較的被害の少なかった 2 階部分の応急補修工事完了を受け、資料は出納式のままですが、5 月 23 日からは 2 階の部分開館（平日 9-17 時）を開始するに至りました。しかし本格的な補修工事が必要なため、全面復旧には 2011 年度いっぱいかかる見通しです。

3.学生ボランティアによる復旧支援

学群生の大学構内立ち入りは 3 月いっぱい禁止されていましたが、解禁となった 4 月 1 日以降、T-ACT(つくばアクションプロジェクト) の協力を得て、落下した資料の書架への戻し作業に多くの学生・教員がボランティアとして参加されました。

4 月 11 日の余震による再落下等の影響を受けながらも、予定よりも早期の復旧が実現できました。中央図書館では 4 月 1 日から 21 日の平日 15 日間に 215 名（のべ 475 名）、図書館情報学図書館では 3 月 28 日から 4 月 8 日の平日 10 日間に 25 名（のべ 64 名）の、合計 238 名（重複参加 2 名）参加を頂き、ボランティア参加者には附属図書館長名で感謝状を贈呈いたしました。

2.電子ジャーナルの確保

今日、多くの研究大学にとって電子ジャーナルをどのような確保するかが大きな問題となっています。1990 年代後半から、学術雑誌は印刷体から電子ジャーナルへと急速な変化を遂げました。大規模商業出版社と学会を中心に学術雑誌の寡占化が進み、ネットワークとプラットフォームの整備、様々な検索サービスの組み合わせによって機能が高度化しました。

雑誌契約においては、大学図書館全体を巻き込んだビッグディールと呼ばれる契約交渉と大学本部・部局の理解を得た全学共通経費化政策により、筑波大学でアクセスできる電子ジャーナルは 2001 年当時の 3,520 タイトルから 2010 年には 19,906 タイトルに増加し、同じ期間に年間ダウンロード数は 10 万件から 80 万件に増加しました。

一方、筑波大学の電子ジャーナル契約方針は、2009-2012（平成 21-24）年度の 4 年間を一区切りとし、2013 年度以降については、2011年度末に方針を決定することになっています。

1.筑波大学電子ジャーナルアンケート

2011 年 1 月から 4 月にかけて図書館 Web ページ上で実施した「電子ジャーナル等の整備に関するアンケート」には合計 495 人からの回答を得ました。集計結果は下記に掲載いたしました。

https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/tsukuba-only/denshitekisiryo/enq2011/enq2011%20houkoku.html

お寄せ頂いたご意見を参考に、今後の電子ジャーナルの整備を検討したいと考えています。

2.新しいコンソーシアムの成立

2011 年 4 月 1 日、国公私立大学図書館全体でのコンソーシアム JUSTICE (Japan Alliance of University Consortia for E Resources) が成立しました。これは従来の国立大学図書館協会コンソーシアムと公私立大学図書館コンソーシアムを発展させ、国公私立の枠を超えた大学図書館界全体と国立情報学研究所が、協力して「バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備」を推進するために組織したものです。これにより、出版社等との交渉、コンソーシアム参加機関への情報提供、学術情報流通に関する情報収集、参加機関の契約状況等の調査、関係団体との連絡調整がスムーズに進むと期待されます。

3.今後に向けて

国内外を問わず、研究者にとって電子ジャーナルへのアクセスは不可欠になっています。大手の学会に個人会員として属している先生方からすると、「自分は○○学会に所属しているので、図書館で電子ジャーナルを契約しなくとも困らない」とお考えの向きもあるかと思います。しかし、電子ジャーナルを利用するのは教員だけでなく、大学院生も多いことは数々の利用調査で明らかになっています。また多くの大学がコンソーシアムとして一体化して共同交渉することにより、日本全体の電子資料へのアクセスが有利になっていきます。この点を多くの方に是非ご理解頂き、電子ジャーナルをはじめとする今後の情報基盤の整備にご協力を賜ればと存じます。

こういった全体の状況を受けつつ、今回の電子ジャーナルアンケートの結果を元に、今後の筑波大学の情報基盤の整備の方針の検討を進めていきます。

3.おわりに

震災復旧も電子ジャーナルの確保も、未来の「あるべき姿」へのビジョンを持って取り組むことが重要だと考えています。来年の「トレンド」では未来を見据えた取り組みが紹介できればと思います。

（図書館情報メディア研究科教授・附属図書館副館長　逸村　裕）

3 フォーカス（2010年度の特徴的な活動・事業）

1.中央図書館耐震改修工事

1.第3期（本館5階）工事の概要

3年計画の最終年度にあたる2010年度に、第3期工事として本館5階の工事を実施したことで、本館1階～5階の耐震改修工事が完了しました。

第2期工事までと同様、閲覧室内に多数のブレースが設置され閲覧スペースが削られることを考慮し、窓際に省スペース型のキャレルデスクを多数設置して閲覧席の確保を行いました。

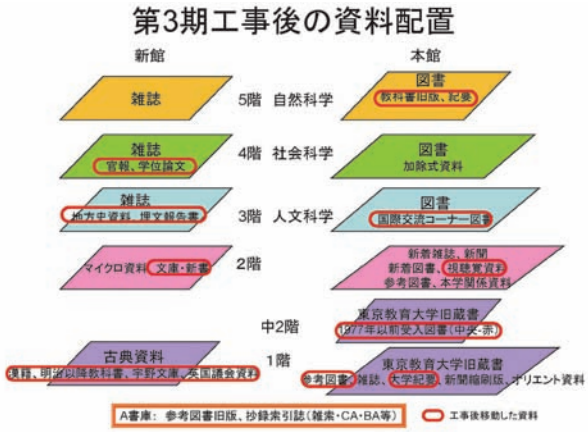
また、書架スペース確保のためセミナー室を設置できなくなったことや、入口に透明のドアを設けた3、4階のラウンジがグループ学習にも利用されている状況から、ラウンジの机を自由に分離・組合せ可能なタイプにし、人数に応じたグループ学習にも利用できるようにしました。さらに、僅かに生じた空きスペースを有効に活用し、フロア内にソファを設置して、利用者の休息環境にも配慮しました。

可動式の机が設置されたラウンジ

空きスペースにソファを配置

2.資料の再配置

工事期間中は、本館1階と中2階を一時保管場所とし、各年度の工事の前後に工事区画内の資料の搬出と搬入を行ってきましたが、ブレースの設置により館内の書架配置等が工事前とは大きく異なるため、資料配置を見直す必要が生じていました。詳細な配置図等をもとに工事完了後の資料配置について検討を繰り返し、資料配置プランを再策定しました。



工事の完了を待つことなく、夏季・秋季の休業期間等を利用して、策定したプランに従った資料再配置作業も実施しました。その際、館外に保管中の資料を少しでも早く利用いただくため、一部を前倒しで館内に戻すことも行いました。

3.館内サインの整備

全ての工事が完了し館内の施設・設備の配置が確定したことを受け、懸案であった2階エントランスホールの「総合案内版」の改訂も行いました。

広大な筑波キャンパスの配置や中央図書館館内の配置を視覚的に把握できる案内板へと変貌を遂げました。

エントランスホールの"新"総合案内版

4.東日本大震災による遅延

工事終了後には、館外での保管を余儀なくされていた旧東京教育大学時代の資料を、年度内に全て書架に戻し利用可能にするための資料移転作業に着手しました。

2011年1月に工事が完了したことを受け、2月に5階への書架設置等を行い、3月から資料の最終移転作業を開始しました。その最中の2011年3月11日（金）に東日本大震災が発生しました。

未曾有の大地震でありながら怪我人はなく、大きな建物被害も無かったことは、図らずも耐震改修工事の効果を実証する結果となりました。

しかし、移動中の資料を含む館内の約6割の資料が書架から落下し、防煙区画用のガラス製垂れ壁が割れて大小の破片が大量に床に散乱するなどし、資料の移転作業は約1ヵ月間の中断を余儀なくされました。作業を終えて全ての資料が利用可能になったのは、5月12日のことでした。

被災後の本館5階状況（2011年3月14日撮影）

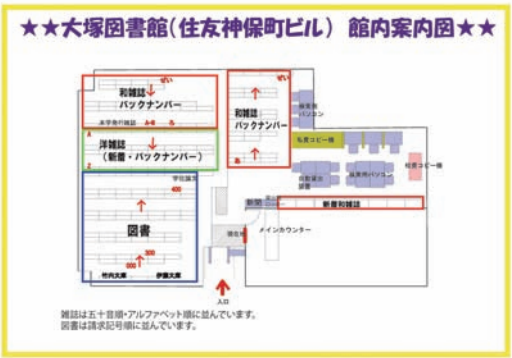
近未来書籍カフェ（雙峰祭での共催企画）

2.東京キャンパス大塚地区校舎改築に伴う大塚図書館改築工事

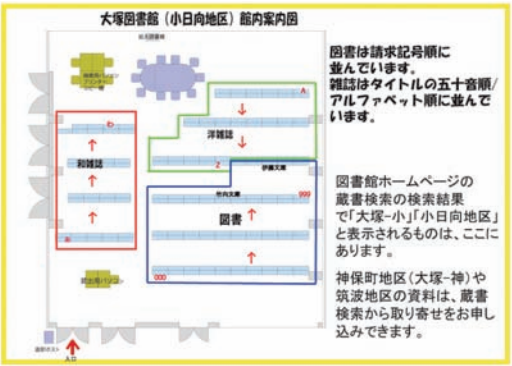
1.仮校舎での図書館サービス

大塚図書館の改築に伴い、2010年3月に、千代田区神保町の住友神保町ビル1階と文京区小日向の旧文京区立第五中学校校舎講堂等に分散して仮移転し、4月から仮校舎での運用を開始しました。

図書館事務室と一部の資料は住友神保町ビルへ、大部分の資料は旧第五中学校への移転となり、かつ旧第五中学校の資料の多くは箱詰めで保管された状態でのサービスとなりました



住友神保町ビル内の大塚図書館風景



旧第五中学校内の大塚図書館風景

職員が資料の出納・搬出のため旧第五中学校との間を毎日往復するなど、利用者への影響を最小限にとどめる努力を重ねましたが、利用者の皆様には多大なご不便を強いることとなりました。

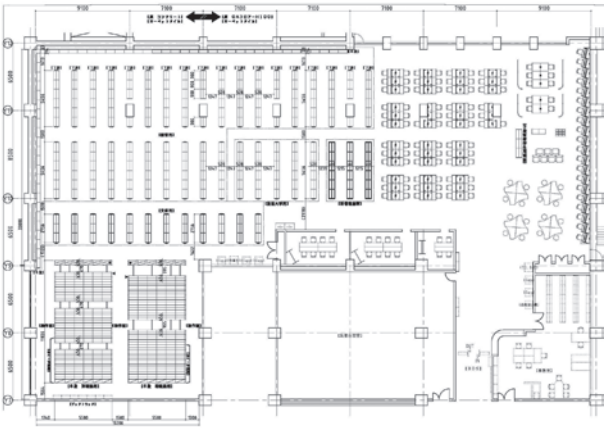
そうした中、明治大学図書館、専修大学図書館に、本学学生の閲覧利用に対する特別のご配慮をいただくことができました。両大学図書館の皆様には深く感謝を申し上げます。

2.新図書館におけるサービス拡充への検討

当初は、2011年4月から、改築後の新校舎新図書室に居を移して運用を開始する予定でした。しかし、改築工事現場での埋蔵文化財調査に対応するため工事着工時期がずれ、新校舎は8月に竣工し、同月中に新校舎に移転し、2学期開始の9月から運用を開始することが決定されました。

新校舎は放送大学東京文京学習センターとの合築により建設されるもので、従来の夜間大学院の機能に加え、生涯学習拠点としての機能が強化されます。

地上6階地下1階建ての建物の地下1階に位置する1，552㎡の新図書館は筑波大学が図書館全体の管理運用を行いますので、最大限に機能させるためのゾーニングの検討を重ねました。



新大塚図書館レイアウト予定図

また、「放送大学と筑波大学の合築調整委員会」のもとに組織された「放送大学と筑波大学の合築に関するワーキンググループ」において、開館時間、両大学の利用者や資料等の取扱い、利用可能なサービス内容等、多岐にわたる運用面の課題を細部まで検討しました。平日の開館時間を早めて日曜日にも開館するなど、従来に比べて大きくサービス内容を充実できる予定ですので、新図書館の運用開始を楽しみにお待ちいただければと存じます。

（情報サービス課長　熊渕　智行）

3 フォーカス（2010年度の特徴的な活動・事業）

3.中央図書館の過去・現在（耐震改修工事竣工記念）

1.はじめに

2008 年 7 月（第 1 期工事）に始まった中央央図書館の耐震改修工事は 2011 年 1 月（第 3 期工事）までの足かけ 3 か年に及ぶ工事となりました。それは、中央図書館が開館した 1979(昭和 54) 年以来の大掛かりな工事となり、大量の図書の移動を伴いました。今年は、中央図書館が開館して 31 年目を迎えます。この紙面をかりて、開館当時と現在の中央図書館の写真を使って振り返ってみたいと思います。

2.エントランスホール

【1979（昭和54）年撮影】

【2010（平成22）年撮影】

中央図書館に入って最初に感じる変化は何と言ってもエントランスホールです。以前は、新聞コーナーとして親しまれていましたが、2008 年 3 月より、コーヒーショップが入り、学内の厚生福利施設としても位置づけられ、憩いの場所として利用されています。

【1979（昭和54）年撮影】

【2011（平成23）年撮影】

上記写真の左側に位置する『総合案内版』は開館当時は、図書館利用案内としての役割を果たしていました。館内マップや利用の仕方について掲示されていましましたが、今回のリニューアルにより、より視覚的に情報を示唆するものに変更しました。内容は、4 面に分け、それぞれの面ごと変更可能な形に改修を行いました。

3.2階フロア

●メインカウンター付近

エントランスホールを抜けて図書館に入ると，入館ゲートとメインカウンターが目に入ります。30 年前にも既に国内の大学図書館に類をみないカーペット敷きでした。今回のリニューアルでは入館ゲートの手前まで柔らかな色のカーペットが広がって暖かい雰囲気を醸し出しています。また、メインカウンターは写真ではわかりませんが、以前はシックなレンガ色でした。今回のリニューアルでは、以前より鮮やかなワインレッドとなり、フロアのアクセントにもなっています。

【1979（昭和54）年撮影】 【2009（平成21）年撮影】

●レファレンス・デスク

【1979（昭和54）年撮影】

【2009（平成21）年撮影】

筑波大学附属図書館では開館当初より、レファレンス・サービス専任の係が設けられています。中央図書館開館時の構想では、2 階から 5 階までレファレンス・デスクを設置し、各階でサービスを行う計画でしたが、実際には、人員体制等の問題で実現されませんでした。5 階のデスクに常駐した事もありましたが、複数デスクへの常駐が難しくなり、現在の 2 階のみの体制となりました。

職員によるレファレンス・デスクは1カ所ですが、現在は形を変えて附属図書館ボランティアによるボランティア・カウンターが設置され、職員では手が届きにくい利用者へのきめ細かなサポートが実現されています。

また、写真の通り以前の机は、対面で会話する形の机でしたが、リニューアルの際、利用者と共に PC の画面を見ながら操作するという現在のレファレンススタイルに適した机をデザイン製作しました。（2009 年、当時の植松館長のアイデアによる）ユニークな形となり、リニューアルされたという印象を強く与えています。

●本館

（広い閲覧デスク）

（窓側にキャレルデスクを配置）

【1979（昭和54）年撮影】

【2009（平成21）年撮影】

開館当時の 2 階フロアのコンセプトは「メインフロアとし、利用者が研究・学習上の主題に近づくための案内を得たり、最新の情報に接したりする機能」となっていました。目に見える形としては、新着雑誌、参考図書、広い閲覧デスクがあり、ノートや本を広げて学習するという事を意識した構成となっていました。

今回のリニューアルの際には、開館当時のコンセプトは守りつつ、これからの図書館サービスとしてラーニング・コモンズ機能を念頭に置き、多目的の利用者の行動を意識したゾーニングを行いました。また、施設設備で強く意識したのは、利用者の学習において PC の重要度が高いことや、個人スペースを確保しつつ防犯のための視認性を高めるといったことです。その結果、入館してすぐのこの場所に全学計算機のサテライトや、集団で学習ができるセミナー室やコミュニケーション・ルームを配置する事により、多様な目的に適合した利用効果の高い場所への改修に成功しました。

●新館

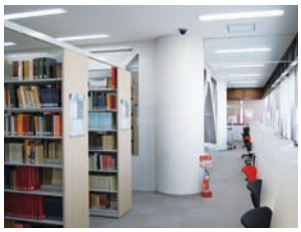
【1995（平成7）年撮影】

【2010（平成22）年撮影】

1995 年に中央図書館西側の空き地に増築が行われ、五階建ての新館として誕生しました。新館は、増えた蔵書の保管、貴重資料の保管と展示、国際交流のための情報や地域情報の提供、新たなメディアに対応できる機器の設置などの役割を果たしてきました。（視聴覚室、国際交流コーナー、地域情報コーナーの設置）今回のリニューアルでは、2 階新館部分を大きく見直し、全体のゾーニングの中で本館部分が PC の設置や激しい人の往来など、音が発生する事が予想できるため、新館部分をサイレント・エリアとし、静かにゆっくり学習したい人の空間“スタディ・スペース”を設置しました。机も 2 種類を配備しましたが、いずれも人の目が気にならないよう配慮しつつ、防犯のため視認性も確保してあります。100 席用意してありますが、テスト期間には常に満席となる人気の場所となっています。

4.3階から5階

【1979（昭和54）年撮影】


【2010（平成22）年撮影】

今回の耐震改修工事で一番苦労した点は、工事の最大の目的である耐震化のための鉄骨ブレースを避けての書架や閲覧席の数の確保とその設置場所です。

写真でもわかりますが、柱の近くまで高書架が設置され、広いデスクが設置できないため、窓側に個人用のキャレルデスクを配置し、閲覧席の利用効率を高める工夫をしました。

また、2 階にセミナー室を集中させることにより、3 階から 5 階は利用者が各自のテーマに沿って研究・学習する場所として静かに活動できるようゾーニングを行っています。

5.写真のアーカイブについて

今回のこの企画と館内サインを製作する過程で、図書館内や学内の他部署からも開館以来の貴重な写真を発見いたしました。今後、機会をみて、こういった貴重な写真のデータをデジタル化して、HP 上などで公開するなど有効活用したいと考えています。

（企画渉外係　福井　啓介）

3 フォーカス（2010年度の特徴的な活動・事業）

4.中央図書館ラーニング・コモンズ検討WG報告

1.ラーニング・コモンズの登場と普及

1990 年代後半からアメリカの大学図書館では、インフォメーション・コモンズとして、ネットワーク情報資源を利用できるようパソコンを多数配置し、グループで利用でき、技術サポートやレポート作成支援などの人的サポートを受けられる環境が整備されてきました。

ラーニング・コモンズは、このインフォメーション・コモンズの機能に加えて、多様な学習ニーズや形態に対応して「学習」により結びついた機能を提供する、図書館の学習支援サービスの柱となる概念です。日本でもこの数年で急速に普及し、国際基督教大学や名古屋大学など、全国各地の大学で設置が進んでいます。

そのような状況の中で、筑波大学附属図書館でもラーニング・コモンズ導入の必要を認め、筑波大学の第 2 期中期計画（平成 22 ～ 27 年度）の重点施策に「カリキュラムや e-ラーニングコンテンツと連携し、学生の自発的な学習活動を支援する知的創造型エリア（ラーニング・コモンズ）を設置するとともに、学生の多様なニーズに応じた場とコンテンツを提供し、来館、在館を促す学習図書館サービスを構築する。」として、ラーニング・コモンズの設置と学習支援サービスの展開を掲げました。

2.筑波大学附属図書館とラーニング・コモンズ

実のところ、筑波大学附属図書館にはラーニング・コモンズがすでに存在します。

春日地区にある図書館情報学図書館に「春日ラーニング・コモンズ」と呼ばれるエリアがあります。これは、知識情報・図書館学類が 2008 年 8 月に空き教室に設置されたラーニング・コモンズが、2010 年 4 月に図書館情報学図書館内に移設されたものです。

この春日ラーニング・コモンズの特徴は、図書館内にあるものの、設置・運営は学類組織、実際には学生によって行われていることです。チューターデスクに座って学類生への支援を行うのはもちろん、学生が自主的にイベント等を企画し、そのレポートをブログに書くなど、積極的な活動が行われています。

学類が設置・運営を行っている春日ラーニング・コモンズに対し、附属図書館としては耐震改修工事が完了する中央図書館への全学的なラーニング・コモンズの設置を検討することになり、2010 年 5 月にワーキング・グループ（以下 WG）を結成しました。春日ラーニング・コモンズをはじめ、先行事例を参考にしつつ実効性のある「ラーニング・コモンズ」を作るため、活動を開始しました。

3.中央図書館ラーニング・コモンズWGの活動

ラーニング・コモンズ WG は、6 名のメンバーと 2 名のアドバイザーで構成されています。2011 年度初～中頃のラーニング・コモンズの設置を目指して、まずは先行事例の研究や、学内組織との連携を軸に動き出すことになりました。

先行事例の研究としては、メンバー・アドバイザーが先行してラーニング・コモンズを設置した大学図書館に出張し、見学・インタビューを行ったほか、海外の大学図書館のラーニング・コモンズを視察した図書館情報メディア研究科の教員に依頼し、WG メンバーをはじめとした職員に対する報告を行ってもらいました。

学内組織との連携に関しては、それぞれ伝手をたどり、どのような学習支援が学内で行われているか、図書館がどのように関与できるかについてヒアリングなどを行って確認しました。また FD の動きにも注目するなど、可能な限り学内の学習支援の流れと乖離しないよう努めました。

一方で、ラーニング・コモンズとして中央図書館のどこにどんな設備を設置するかについても、詳細な検討が行われました。中央図書館は、2008 年度から 2010 年度にかけて、3 年計画で耐震改修工事が行われ、2010 年度は本館 5 階が工事区画となっていました。それ以外のスペースは耐震改修工事が終了し、特に本館 2 階、新館 2 階はラーニング・コモンズ的機能を予め意識したゾーニング、フロアプランとなっていました。そのため、そのゾーニングを生かしての検討が進みました。具体的には、新館 2 階が「スタディスペース」として個人での学習に特化したエリアとなっていることや、耐震改修工事によってグループで利用できるセミナー室が減少したことに鑑み、本館 2 階をグループでの利用に特化した空間として整備する方向で検討を進めました。

予算面で大規模な改修が望めない中、可能な範囲でスペースを捻出したり、ラーニング・コモンズとは直接関係しないものの学習支援的な機能を持つ要素も取り込んだりしながら、ラーニング・コモンズの設置計画の策定を進めました。

4.中央図書館ラーニング・コモンズのコンセプト

中央図書館のラーニング・コモンズは、「インプットからアウトプットまでの知的創造活動と、交流・協働のトータルサポート」をコンセプトに掲げました。そのコンセプトの下で学習を以下の

近未来書籍カフェ（雙峰祭での共催企画）

3 つの点からサポートする環境を提供し、それぞれを人的サポートによって補完するという構成になっています。

●インプットサポート

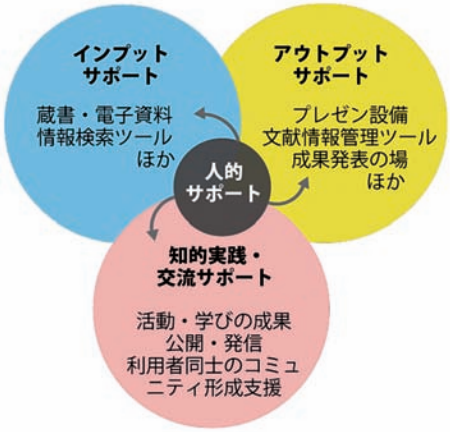
蔵書や電子資料、情報検索ツールなど情報の「入力」についてのサポート。

●アウトプットサポート

文献情報管理ツールやプレゼンテーションの設備、成果発表の場の提供など、学習成果の「出力」についてのサポート。

●知的実践・交流サポート

学習・活動成果の公開・発信や利用者同士のコミュニティ形成についてのサポート。

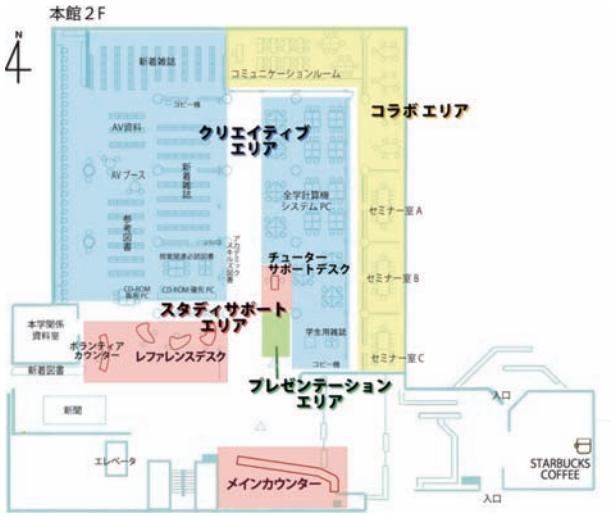


なお、基本的なコンセプトについては館内の合意を得ることができましたが、ラーニング・コモンズの名称に関しては、2010 年度中には合意に至ることができませんでした。2011 年度のラーニング・コモンズの本格オープンまでに再検討することになりました。

また、このコンセプトに基づいて、中央図書館本館 2 階を以下のようにゾーニングしました。

●スタディサポートエリア（人的サポートエリア）
●クリエイティブエリア（パソコンエリア）
●コラボエリア（グループ学習エリア）
●プレゼンテーションエリア（成果発表・展示エリア）

また、蔵書収集方針から外れていたため、これまで積極的に収集してこなかった「レポート・論文の書き方」「プレゼンテーションの方法」「各種パソコンソフトの使い方」などの図書を「アカデミック・スキルズ図書」として配置し、学習支援のための資源の充実を図ることも決定しました。

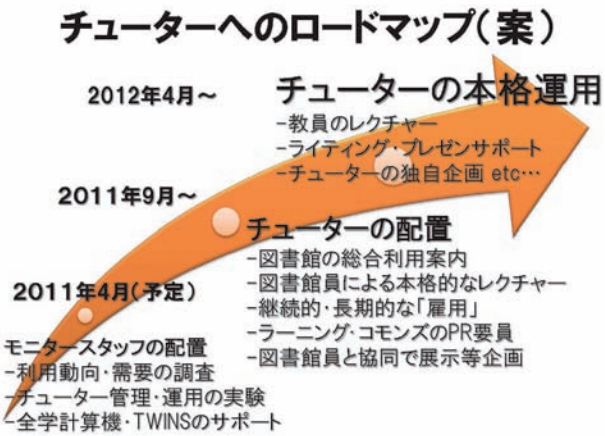


5.中央図書館ラーニング･コモンズのロードマップ

ラーニング・コモンズの設備面では 2011 年 4 月にはほぼ想定したものが出揃う見通しが付きましたが、中央図書館ラーニング・コモンズの核となるべき人的サポートについては、日本の先行事例でも際立った成功例が少ないため、慎重に進めていくことになりました。

そもそもの需要が不明なことから、2011 年度当初は「モニタースタッフ」と位置付けて、人的サポートのスタッフとラーニング・コモンズの利用や人的サポートの需要の調査要員としての面を併せ持ったスタッフとして試験導入し、その結果を勘案して 2011 年秋以降のスタッフの本格導入（ラーニング・コモンズの本格オープン）へ繋げていきたいと考えています。

次の年報では、実績を踏まえた成果報告ができるよう、学習の場、そして学習支援の場としてのラーニング・コモンズと附属図書館の充実を図っていきます。



（中央図書館ラーニング・コモンズ検討 WG　嶋田　晋）

3 フォーカス（2010年度の特徴的な活動・事業）

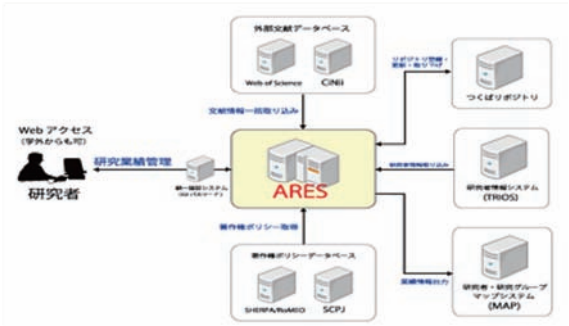
5.知の集積とARES

1.「知の集積と発信」とは?

現在、筑波大学では、TWINS, TRIOS, FAIR、全学計算機システム、統一認証システム、e- ラーニングシステム、研究シーズ等、様々な情報システムが稼働しています。しかし、それぞれのシステムはその内部で完結しており、連携しているとは言い難い状況にあります。そこで筑波大学情報環境機構では、これらのシステムの整理･再構築を行うマスタープランを作成しました。その中に、筑波大学の研究成果を集積し広く学外に発信する「知の集積と発信」があります。附属図書館では、この全学規模の「知の集積と発信」の中で、教員業績の収集システムの再構築の一部を担当しています。

2.ARESとは?

ARES とは、Achievement of Research Enrollment System（研究業績登録支援システム）の略で、「知の集積と発信」の中で、教員が論文・著書の業績を入力・確認する業績収集機能と、その研究成果をつくばリポジトリにも同時に登録するリポジトリ登録支援機能の 2 つの機能を併せ持つシステムとして、附属図書館が開発しているシステムです。（概念図参照）このシステムの特徴は、教員が研究業績の登録の際に正確な書誌データを利用できることです。附属図書館は筑波大学の教員の論文等の研究成果を Web of Science（以下、WoS）や CiNii といった外部データベースから入手して予め登録しておきます。教員はこれを自分の業績であるか確認するだけで自分の業績として簡単に登録できます。2009 年度末に ARESβ版を開発しましたが、より使いやすいシステムとするため、2010 年度に機能拡張を行うことになりました。



3.今年度の改修について

今年度の機能拡張は、「知の集積と発信」を担う他のシステムに先行して行うこととなったため、主にユーザーインターフェースの改善と作業の省力化、将来的な拡張性に重点を置きましたが、結果としてかなり大規模なものとなりました。大まかに以下の 4 点が大きな改良点となります。

【利用者視点の入力インターフェース】

ARESβ版は、その開発のきっかけがリポジトリ登録支援機能だったことから、研究者にデータ 1 件ずつの確認を求めるものでした。これは、正確性という面では重要ですが、多忙な研究者には使いやすいとは言えません。そこで、一覧表示画面での一括確認と、必要に応じて研究者がデータを追加修正することを可能とし、操作性を改善しました。

【CiNii からの自動登録】

これまでは、CiNii の検索、検索結果のダウンロード、システムへの登録は全て職員の手を経て行っていました。新たに、CiNii が公開している API を使用して、検索から結果の取得まで全てシステム上で自動的に行うことができるようになり、大幅な省力化が実現しました。

【自動的な著者同定】

外部データベースのデータを ARES に登録するには、著者が筑波大学の研究者かどうかを一人一人確認する著者同定という作業が必要です。この作業もこれまでは全て職員が一件ずつデータを見て行っていました。今回、WoS と CiNii それぞれのフォーマットに合わせて、機械的に著者を同定する機能を開発し、データを投入すれば自動的に著者同定まで処理することができるようになりました。さらにこの機能を応用し、研究者が新規に入力する際に、著者名から研究者名を補完する機能も備えています。

【会議発表データの収集】

外部データベースでは、論文、著書のデータのみ収録しているため、ARES にも論文、著書の業績としてしか登録できませんでした。しかし今回、WoS のデータを解析し、論文データから会議発表の基礎データを抽出することに成功しました。これにより、従来は対応できなかった会議発表の業績について、論文や著書と同様に ARES システムの中で入力、作成することが可能となり、研究者の新規入力の手間が、部分的ではありますが軽減されています。

今年度はシステム設計に取り掛かる前に、文系・理系の教員の方のご協力を得てヒアリングをさせて頂き、業績入力について色々なご意見を頂きました。その際の意見をもとに、著書の入力方法や、主著者の決定など、細かい部分についても様々な改良を行いました。今後は「知の集積と発信」の進捗状況に併せて、2011 年度中に実際に研究者の方に ARES での業績確認・入力を行って頂き、研究業績の広範な収集と、機関リポジトリへの登録促進を進めたいと考えています。

（電子図書館係・ARES チーム　平田　完）

近未来書籍カフェ（雙峰祭での共催企画）

6.つくばリポジトリとその周辺

1.2010年度の概況

2011 年 3 月 31 日現在、つくばリポジトリの登録コンテンツ数は、24,574 件、年間総アクセス数は 279,123 回でした。今年度の新たな動きとしては筑波大学出版会と 7 月に覚書を交わし、出版会刊行物、全点を登録可能となりました。現在、既刊 19 点中 18 点の著者が希望する部分（まえがき等）を公開中です。

つくばリポジトリは電子図書館システムに収集されてきた、学位論文（博士）、学内紀要、研究報告などを継承してスタートしました（貴重図書はつくばリポジトリの収録対象外）。今年、この中で博士学位論文に大きな動きがありました。

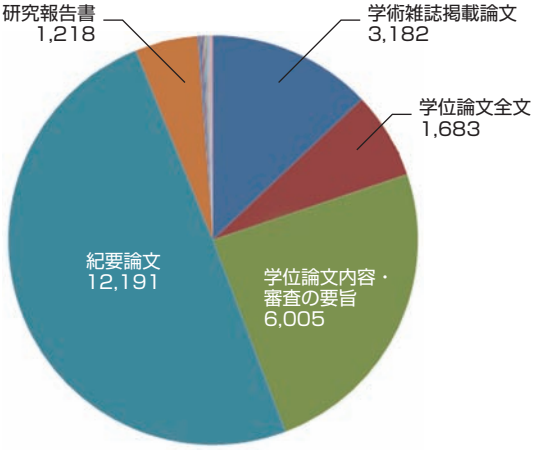


図 1 つくばリポジトリ収録点数

2.学位論文（博士）のデジタル化実施に係る著作権処理（「共通許諾」）手続への参加

国立国会図書館では、2010 年度大規模デジタル化事業の一環として、1991 年から 2000 年に受け入れた博士学位論文を電子化する事業を行うことになりました。インターネットでの公開に必要な著作権者の許諾を得る手続きは、国会図書館と大学図書館関係者との協議の結果、各大学と国会図書館が共同で行うこととなり、筑波大学もこの手続きに参加しました。リポジトリ担当が窓口となり、国会図書館から依頼を受けて、博士学位号授与者 770 名の連絡先調査を行いました。結果、各支援室のご協力により 4 割にあたる 343 名の連絡先を報告することができました。2011 年度に国会図書館から電子ファイルが送られる予定であり、リポジトリのコンテンツの充実が期待できます。

3.国内学協会への働きかけ～SCPJプロジェクト3

2011 年 2 月、つくばリポジトリに登録された学術雑誌掲載論文が 3,000 件を突破しました。日本の場合、学術雑誌のほとんどは学協会から出版されています。国立情報学研究所の CSI 委託事業「オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント・プロジェクト」として本学・千葉大学・神戸大学・東京工業大学が調査・運営を行っている「学協会著作権ポリシーデータベース（SCPJ データベース）」は、リポジトリ登録希望者が個々に学会に問い合わせる煩雑さを解消するものとして、全国的に利用されています。

図 2 CSI 委託事業報告交流会発表ポスター
2010 年 6 月 22 日、国立情報学研究所

これまで SCPJ プロジェクトでは学会への調査に主軸を置いてきましたが、委託事業第 3 期がスタートした今年度からは学協会に対してオープンアクセスへの理解を求めることに力を入れています。その一つの方策として、国立大学図書館協会学術情報委員会と協同で 2 種類のリーフレットを作成し、全国 2,462 の学協会に配布しました。

なお、リーフレットは学会での検討の際にご利用いただけるよう、SCPJ サイトで公開しています。(http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/info/gakkai.html#sanko)

4.2011年度に向けて

このほか CSI 委託事業関係では茨城県文化行政担当職員研究協議会で「茨城県遺跡資料リポジトリ」について協力を依頼し、稲敷市・行方市・土浦市等から発掘調査報告書をお送りいただきました。

また、学内刊行誌 4 点が新たにつくばリポジトリに加わったほか、複数の教員から一度に 30 点以上の論文をご提供いただきました。これも電子図書館システムから続く、地道な活動と広報の成果であると感じています。

（リポジトリ担当専門職員　大澤　類里佐）

3 フォーカス（2010年度の特徴的な活動・事業）

7.特別展

2010 年度の特別展は、附属図書館と人文社会科学研究科との共催により、「慈雲尊者と悉曇学ー自筆本『法華陀羅尼略解』と「梵学津梁」の世界ー」と題して 10 月 4 日（月）から 10 月 29 日（金）まで中央図書館貴重書展示室で開催しました。

本特別展は、人文社会科学研究科文芸・言語専攻の秋山学先生の企画立案のもと、附属図書館研究開発室のプロジェクトの一つという位置づけによって、職員 8 名によるワーキンググループが秋山先生とともに実施にあたる体制で行いました。

本特別展を企画された秋山先生は、古典古代学がご専門で、担当している授業科目も、ギリシャ語、ラテン語、西洋古典学等です。先生と江戸時代中・後期に活動した高僧である慈雲尊者との接点はどこにあるのか、一見わかりにくいですが、先生は『創文』534 号（2010 年 9 月）に「慈雲さんのこと」と題して寄稿されており、その中に慈雲尊者との関わりや今回の特別展に至る経緯が記載されていますので、その内容を参照しつつ本特別展のテーマ・意義等を簡単にご紹介します。

先生が慈雲尊者飲光（1718 ～ 1804）の名に初めて接したのは 2000 年のことだそうですが、サンスクリットをインド・ヨーロッパ語文法の範疇で学習してきた先生にとって、鎖国下のわが国において、当時としては世界水準の梵学を集大成した慈雲の名は、そのとき以降脳裡を離れることがなかったそうです。そして「わたくしとしては、従来の「西洋古典学」を拡大的に理解して伝承史や神学を含ませ、かつギリシア・ラテン語とともに古典語の一つとしてサンスクリットを位置付けることを考えており、その全体を「古典古代学」と呼んでいる。慈雲尊者はこの「古典古代学」の祖としての位置にある」と慈雲を評価しています。慈雲の業績として最も著名なものは「梵学津梁」一千巻の編纂ですが、これはわが国における梵学・悉曇学のアーカイヴと言えるもので、先生は、わが国の悉曇史を総括した「古典古代学の祖」としての慈雲という位置づけをベースに、本学所蔵の梵学・悉曇学関係の展示を行いたい、とつねづね考えておられたそうです。そして、こうした意向が図書館に伝えられ、検討の結果、このテーマによって特別展を開催することを決定しました。

慈雲は 2004 年が没後 200 年にあたるので、これを期に大阪の高貴寺が所蔵する「梵学津梁」のデジタル化が進められ、2008 年にその DVD が完成しました。「梵学津梁」は全一千巻として世に知られていたものの、出版される機会がなかったため、「幻の大著」としてその全貌は長く闇に包まれていましたが、高貴寺には「梵学津梁」の写本の大部分が保存されていると伝えられてきましたので、「高貴寺 DVD」が公刊されたことの意義はとても大きいものでした。

さて、本特別展の準備のため秋山先生が調査を行っていたところ、その特徴的な運筆から慈雲自筆と判明した資料が三点発見されました。なかでも『法華陀羅尼略解』（1803 年）は、その巻末の記述から、従来知られていた最晩年の主著のおよそ 10 日後に完成したものであることがわかりましたが、これは「高貴寺 DVD」にも収録されていない「孤本」であり、現在のところ当館所蔵の慈雲自筆本しか確認されていないという大発見となりました。これは先生にとっても実に思いがけない収穫であったということですが、本書の発見によって、まず自筆本『法華陀羅尼略解』を展示し、慈雲の軌跡や「梵学津梁」全体の問題等を見、さらに日本における悉曇学の展開をたどる、という展示の流れが確定しました。

秋山先生と来館された山田学長、展示風景

図書館の WG は、例年通り様々な作業を行いましたが、今回初めて行った試みは、秋山先生による展示品解説の YouTube による公開と展示 WG による Twitter の実施でした。特に Twitter については会場の様子を伝える上での臨場感があり、非常に有効な広報手段となりました。

本特別展の来場者数は 1,042 人でしたが、仏教界からの注目を集めたことは特筆されます。僧籍にある方々が遠方から来館・観覧され、寺院等から図録を送付してほしいとの要望も多数寄せられました。大学等の研究者以外でこのような特定の属性（専門性）を持った集団から注目されるのは、これまでの特別展ではあまり例のないことでしたが、今回の特別展は秋山先生の科研による研究成果の一部としても位置付けられた高度に専門的なものであったので、そのような展示を行うことで、従来の学生・大学の研究者・一般市民を対象とした展示会というとらえ方から一歩その枠外に踏み出すことができる可能性を得られました。貴重資料の公開としての展示会というだけではなく、研究支援活動としての展示会という性格もあわせ持つことで、図書館の行う展示会の意義がより広がったといえるでしょう。

（情報管理課課長補佐　篠塚　富士男）

近未来書籍カフェ（雙峰祭での共催企画）

8.近未来書籍カフェと図書館キャラクター

1. 近未来書籍カフェ

本学図書館情報メディア研究科の宇陀・松村研究室と筑波大学附属図書館は、2010 年筑波大学学園祭「雙峰祭」に共同企画「近未来書籍カフェ」を出展しました。多数のご来場と大好評を頂き、学研企画としては異例の最優秀賞「雙峰祭グランプリ」を獲得することができました。

「近未来書籍カフェ」とは、電子書籍や紙の本を組み合わせるなどして「近未来」の書籍空間を作り、そこで新しい読書体験を楽しんでもらうことを目的としたものです。この書籍空間をプラットフォームに、いくつかの企画が行われました。

3～4 人程度の参加者が 1 人 5 分の制限時間で 1 冊の本を紹介し、どれが最も面白そうで読んでみたくなった本かを会場のオーディエンスに決めてもらう「知的書評合戦」こと「ビブリオバトル」や、図書館の本 1300 点余りと私物の本、電子書籍や意味深なオブジェを使って、図書館の書架とは一味違うようプロデュースされた本棚、電子機器と連携したり宝探しと組み合わせたおはなし会、電子書籍の体験コーナーなど盛り沢山の内容で、どれも好評を博していました。

従来の図書館とは違った発想の「書籍空間」の企画は、職員も非常に刺激を受けました。2011 年以降の企画や、今後の附属図書館のスタイルなどを考える上で、図書館情報メディア研究科との連携を深めていくきっかけになればと考えています。

2. 図書館キャラクター

「近未来書籍カフェ」で、もうひとつの目玉として注目されたのが附属図書館の公式マスコットキャラクターである「がまじゃんぱー」の着ぐるみです。これは、今回の企画に合わせて有志の手によって作成されたものですが、グランプリ授賞式をはじめ、各種宣伝に大活躍でした。

筑波大学附属図書館には「がまじゃんぱー」と「ちゅーりっぷさん」という公式キャラクターが居ます。2006 年に当時の電子図書館システムの更新に前後して、広報力の強化も目的に作られたもので、今や大学図書館界でも有数の知名度を誇る人気キャラクターになっています。作成当時でも先行例はありましたが、ここ数年、「ゆるキャラ」ブームを受けてか、大学図書館ばかりでなく全国の図書館でもキャラクターの登場が相次ぎ、「トキャラ図鑑」（http://kumori.info/data/characters.html）なども作成されるなど俄かに活況を呈している状況です。筑波大学附属図書館では、ブームに先行して図書館キャラクターを生み出し広報に効果的に活用することで、知名度の向上を図ってきました。館内掲示や配布物、Web ページ、図書館プロモーションビデオ、機関リポジトリの登録促進グッズなど学内はもちろんのこと、筑波大学の外でも先行事例として取り上げられた「がまじゃんぱー」「ちゅーりっぷさん」を目にする機会が年々増えていると思います。

しかし、筑波大学附属図書館のキャラクターが知名度を得るに至ったのは、附属図書館の職員だけでなく、キャラクターに興味を持った学生が自らのブログに取り上げるなどの情報発信を積極的に行なったことが大きいと思われます。筑波大学附属図書館のキャラクターの成功は、（図らずも得た）図書館外のサポーターの力無くしては為しえなかったことでした。その意味で、図書館と図書館外のサポーターとのコラボレーションが実現し成功した例とも言えます。

また、そのコラボレーションの延長として、「近未来書籍カフェ」で「がまじゃんぱー」着ぐるみが実現しており、今後とも良好な協力関係を維持しつつ、キャラクターの一層の有効活用と、それによる筑波大学附属図書館のプレゼンスの発揮を図ることが責務であると考えます。

（企画渉外係・キャラクター作成　有志　嶋田　晋）

3 フォーカス（2010年度の特徴的な活動・事業）

9.Readingバトンと学長・理事の本棚

1 Reading バトン

「Reading バトン 教員から筑波大生への message」とは、本学の先生同士のネットワークをお借りして、様々な先生から筑波大生にお薦めの図書をご紹介頂くブックレビューリレーです。先生が教育者・研究者として、学生にお薦めの本、思い出の本、研究分野の紹介や学生に伝えたいことを、ブックレビューを通じて学生の「発見」や「ひらめき」に繋げることが目的です。学問のプロフェッショナルである教員のブックレビューが学生への「バトン」となり、何かを見つけて走り出すきっかけになればと願っての企画です。

この企画は、筑波大生のためのWebサイト「週5図書館生活、どうですか?」のコンテンツです。電子ジャーナルや電子ブックといったネットワーク上のリソースの普及により、図書館へ行かなくても容易に学術情報が得られる環境が整いつつあります。この企画は、そうした状況にあって、学生に図書館へ脚を運んでもらい、実際に本を手に取るきっかけとなることが期待されています。そのため、まずインパクトを出すために、第一走者として山田信博学長からのご寄稿を頂きました。山田学長からは、本学のキャッチフレーズ「IMAGINE THE FUTURE.」と絡め、新しい付加価値を生み出す想像力を発揮するよう、エールが贈られました。

第二走者である波多野澄雄附属図書館長からは、歴史を学ぶことの意味、その中で他国との関係を認識することの大切さを説いたブックレビューが寄せられました。この後、第三、第四走者と続いていきますが、学生にとって有意義なブックレビューが今後も続けられるよう、努めていきます。

2 学長・理事の本棚

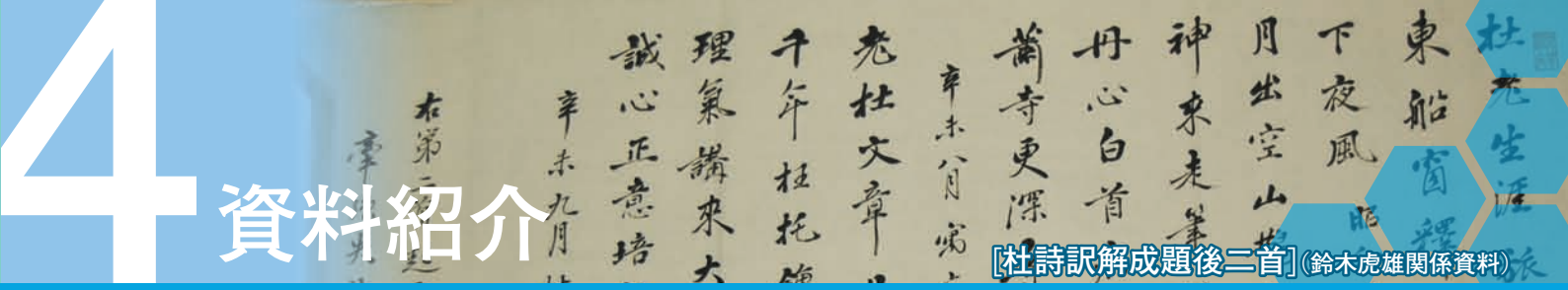
2010 年筑波大学学園祭「雙峰祭」で、図書館情報メディア研究科の宇陀・松村研究室との共同企画「近未来書籍カフェ」を出展しました。この企画の中で、通常の図書館の本棚とは違う本棚をプロデュースしましたが、スペシャルな本棚として「筑波大学の学長・理事の本棚」も展示しました。

山田学長はじめ、理事（副学長）の方々の本棚を「再現」する試みで、皆様の協力を得て普段読んでいる本、学生に読んで欲しい本をリストアップし、棚に並べてみました。展示中から反響が大きく、終了後も展示を続けて欲しいというご意見を頂いたため、学園祭終了後、10 月中旬から 11 月初旬にかけて期間限定で再現展示を行ないました。その後、準備が整ったことから、11 月下旬から中央図書館 2 階のメインカウンター前に、通常の図書と同様に貸出・予約が可能な形で「学長・理事の本棚」をリニューアルオープンしました。

ここに展示したことで、それまであまり借りられていなかった図書も頻繁に借りられるようになり、予約がかかるなどしてほとんど棚に戻らない本が何点もあったことから、高い注目を集めたことが判ります。

「学長・理事の本棚」は 2011 年 3 月 31 日で終了する予定でしたが、好評により 4 月以降もしばらく継続の予定です。この展示終了後も、引き続き学生の興味を引くような企画や展示方法を模索し、「来館」や「本を手に取る」ことの価値を高めていくことができればよいと考えています。

（企画渉外係　嶋田　晋）



4 資料紹介

[杜詩訳解成題後二首]（鈴木虎雄関係資料）

1.鈴木虎雄関係史料（陸羯南書簡ほか）

いまから 50 年前、1961 年の文化勲章受章者は、川端康成をはじめとする 6 人の方々でした。中国文学研究者の鈴木虎雄博士もこの年に文化勲章を受章したお一人でしたが、縁あって 2010 年 3 月にその関係史料 764 点 (612 冊) が、ご子孫から附属図書館に寄贈されました。

本史料の寄贈はもちろんご子孫の意向によるものでありますが、当館との仲介役として本学大学院人文社会科学研究科の中野目徹教授に多大なご尽力をいただきました。中野目先生は日本近代史・思想史をご専門とされる立場から、著名な言論人である陸羯南（くがかつなん）関係史料の調査研究に取り組まれており、そうした研究活動の一環として、ご子孫から先生の研究室にお預かりする形で本史料の調査を実施されました。この一連の調査研究については、『近代史料研究』9 号～ 10 号 (2009 ～ 2010) に詳細に報告されていますが、この研究成果にしたがって本史料の概要を簡単にご紹介します。

鈴木虎雄は、1878 年（明治 11 年）に新潟県西蒲原郡粟生津村（現・燕市）に生まれ、1900 年に東京帝国大学文科大学漢文科を卒業、翌年、陸羯南が社長兼主筆を務めていた日本新聞社に入社しました（虎雄は 1906 年に羯南の次女と結婚しています）。1905 年には、本学の前身校の一つである東京高等師範学校講師の嘱託を受け、1908 年 4 月には同校教授となりましたが、同年 12 月に京都帝国大学文科大学助教授に転じ、1919 年（大正 8 年）に同大学教授に任じられました。1938 年（昭和 13 年）、京都帝国大学を退職して京都帝国大学名誉教授となり、翌年、帝国学士院会員となりました。また、戦後は 1958 年に文化功労者となり、1961 年に文化勲章を受章、1963 年に亡くなりました。

虎雄は、総合的な漢学の伝統から脱して中国文学という専門領域を独立させる上で独創的な功績をあげ、近代日本における中国文学・文化研究（中国学）の創始者の一人として知られています。代表的な著作である『支那詩論史』（1925 年）は、1928 年に中国でも翻訳出版（『中國古代文藝論史』）されています。また、杜甫の詩の全訳を果たしたほか、白楽天、陶淵明等、多くの詩人の詩解を著しましたが、豹軒（ひょうけん・詩）、葯房（やくぼう・短歌）と号して、自らも多くの漢詩や短歌を作りました。

これまで知られてきた虎雄に関するまとまった史料としては、燕市長善館史料館（虎雄の生家である私塾長善館の跡地に建設）に収蔵されている遺品等と、京都大学文学部にある旧蔵図書約 14,000 冊（鈴木文庫、漢籍を中心とした中国関係図書のコレクション）があります。しかし、当館の「鈴木虎雄関係史料」は、多数の自作の漢詩文を含むほか、書簡や履歴書、各種の辞令等、虎雄にとって最も身近で重要な史料が含まれています。また、年代的にも、1889 年 1 月の日付がある文章から、最晩年の 1962 年に書かれた「悼柳田國男君」まで、すなわち、わずか 10 歳の時のものから 80 代に至るまでの、ほぼ生涯にわたる史料が含まれています。こうした史料の種類の多彩さと、カバーしている年代の広さの両面からみて、本史料が虎雄に関する最も重要な基本史料であることは間違いないでしょう。

それでは、本コレクションの中から特色ある史料をいくつかご紹介します。

まずは厖大な自作の詩文集です。この中には、未公表のものも多数含まれていると思われますが、まだ詳細な検討は行われておらず、その全貌の解明は今後の研究をまつことになります。これらの史料は、生涯に一万首近くの漢詩を作ったといわれる虎雄の詩人としての活動を示すものとして注目されます。

次に「陸翁書簡」として一括して保存されていた史料群があります。「陸翁」とは陸羯南のことで、陸羯南関係史料 15 点がまとめられています。この「陸翁書簡」については、中野目先生によって全点翻刻され『近代史料研究』9 号に発表されています。書簡は大部分が 1905 年から羯南が亡くなる 1907 年までのものとみられ、病床に臥した後の羯南の様子や心情の一端を知ることができ、羯南の人間像の研究にとって非常に貴重なものと評価されています。

また、虎雄はわずかの期間ではありますが、羯南が支援していた正岡子規と日本新聞社で同僚だったことがあり、11 歳年上の子規と俳句や短歌・漢詩等を通じた交流がありました。虎雄は 1951 年に行われた「子規五十年祭」で記念講演を行っていますが、この講演の原稿をはじめとする子規五十年祭関係の資料も残されており、子規との接点や影響をうかがうことができます。

この貴重なコレクションは、「鈴木虎雄文庫」として貴重書庫に収蔵され、2010 年 7 月には整理がおわって目録が検索できるようになりました。本史料によって様々な研究が一層進展することが期待されます。

※資料を探すときは「鈴木虎雄」で検索ください。

http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/

（情報管理課課長補佐　篠塚　富士男）

5 職員の活動

1.出張報告

1 ラーニング･コモンズ調査出張

ラーニング･コモンズ WG として、先行事例調査のため、ラーニング・コモンズを設置している大学図書館へ出張し、現地の見学・調査やインタビューを行ってきました。

調査にあたってはラーニング・コモンズの施設・設備だけではなく、人的サポートの状況や教育組織など学内他部局との連携にも注目しました。これらの出張については、ラーニング・コモンズ WG の中間報告も兼ねて、職員研修会で報告が行われました。

●東京女子大学

「マイライフ・マイライブラリー」を図書館全体のコンセプトとして、滞在型図書館を目指しています。学生の自主的活動による学生アシスタントを採用しているのが特徴です。

東京女子大学図書館メインカウンター

●国際基督教大学

自動化書庫の導入に伴い、スタディ･エリアとしてラーニング・コモンズを整備しました。主にレファレンス職員がサポート対応していますが、ICT 系の質問対応に学生を雇用しています。

国際基督教大学オスマー図書館グループ学習室

●上智大学

ライティングセンターを目指して、学習の場としてラーニング・コモンズを整備しました。教員の推薦を受けた大学院生を相談スタッフとして配置しています。

上智大学中央図書館グループワークエリア

●大阪大学

“Teaching から Learning へ ” という大学の情勢の変化に沿って､｢学びの場｣｢創造の場｣｢発想の場｣をキーワードに､耐震改修工事を機に海外事例を参考にラーニング・コモンズを設置しました。TA を配置し､選書や掲示作成､オリエンテーションの実施なども任せています。

大阪大学附属図書館総合図書館メインカウンター TA 席

●名古屋大学

図書館に人を集める方法としてラーニング・コモンズを企画し、学習・グループ利用スペースを設置しました。図書館で雇用した学生サポートスタッフの他、学生相談室から派遣されたピアサポーターが活動しています。また TA は、基礎セミナーのスタッフとして図書館の利用指導を行っています。

ポスター発表（平成21年度CSI委託事業報告交流会）

名古屋大学附属図書館 グループラーニングエリア

●金沢大学

図書館による学習支援を学長に求められ、教員と連携して、学生が長時間滞在できる空間として企画されました。ブックラウンジ「ほん和かふぇ。」が学内の注目を浴びており、入館者数は 30% 増となっています。

金沢大学附属図書館 オープンスタジオ

●広島大学

BIBLA として、自由にグループワークのできる空間を新設しました。Study Space には情報メディア教育研究センター職員が常駐し、メインカウンターには学生の非常勤職員（ライブラリ・アシスタント）を雇用しました。入館者数は 15% 増加しました。

広島大学附属図書館グループワークゾーン

●静岡大学

図書館リニューアルに合わせ、若手職員が学生モニターの意見も参考にして企画されました。Learning Park をコンセプトに、出会い、集い、学びができ長期滞在できる快適な空間作りを目指しました。館内でゼミを行うことが増えたため学生の入館者も増えましたが、教員の入館者数が目立って増加しました。

静岡大学附属図書館 ハーベストルーム

2 研修出張

平成 22 年度、附属図書館では研修出張として、職員自身がテーマ・目的と出張先を決めて申請する仕組みができました。これを活用して「特色ある図書館広報を学ぶ」をテーマに、嶋田企画渉外係員と中山電子図書館係員が、静岡大学附属図書館と大阪芸術大学図書館へ出張しました。静岡大学附属図書館はラーニング・コモンズの見学も兼ねつつ、ギャラリーでの学生との共同企画など広報面にも着目しました。大阪芸術大学図書館では、図書館の閲覧スペースを展示会場とした展覧会を行うなど、図書館の場を活用した広報活動を展開しています。これらを見学し、インタビューを行うことで、広報活動についての新たな知見を得ることができました。

大阪芸術大学図書館 館内での展示（ロボット展）

2.論文発表･研修における講師等

当館職員の論文執筆や、学外の研修・シンポジウム等における講師・事例発表等の活動記録です。

1.執筆活動

斎藤未夏. 研究者の2つの側面にアプローチする～筑波大学附属図書館におけるプロモーション活動～. 日本農学図書館協議会誌. 2010, no.158, p.12-14.

つくばリポジトリへの登録促進活動についての報告論文
→Web でフルテキストを入手できます。
つくばリポジトリ URL
http://hdl.handle.net/2241/105301

気谷陽子.特集:大学の中の専門図書館:開かれた大学の開かれた専門図書館ー筑波大学図書館情報学図書館.. 専門図書館.2010-IV,no.244,p20-26

図書館情報学図書館についての原著論文
→Web でフルテキストを入手できます。
つくばリポジトリ URL
http://hdl.handle.net/2241/107828

嶋田晋. 事例報告 第64回(2010年度)研究集会「図書館を演出する」: がまじゃんぱーとちゅーりっぷさんの観察日記-筑波大学附属図書館でのキャラクター活用事例-. 東海地区大学図書館協議会誌. 2010, no.55, p.25-32.

筑波大学附属図書館のキャラクター」活用事例についての報告論文
→Web でフルテキストを入手できます。
つくばリポジトリ URL
http://hdl.handle.net/2241/110198
「東海地区大学図書館協議会誌」Web サイト
http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tokai/

2.ポスター発表

「つくばリポジトリ コンテンツ構築支援･研究業績登録支援システム」 平成21年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系), 2010.6.22, 国立情報学研究所.

→Web でフルテキストを入手できます。
http://hdl.handle.net/2241/105543

「オープンアクセスとセルフ･アーカイビングに関する著作権マネジメントプロジェクト(SCPJプロジェクト2)」平成21年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系), 2010.6.22, 国立情報学研究所.

→Web でフルテキストを入手できます。
http://hdl.handle.net/2241/105544

「オープンアクセスとセルフ･アーカイビングに関する著作権マネジメントプロジェクト(SCPJプロジェクト2)」平成21年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系), 2010.6.22, 国立情報学研究所.

→Web でフルテキストを入手できます。
http://hdl.handle.net/2241/105545

ポスター発表（平成21年度CSI委託事業報告交流会）

3.職員研修会

開催日	氏　名	催し名　【テーマ･レジュメ･参考URL】
2010.6.22	斎藤　未夏	平成21年度CSI委託事業報告交流会（コンテンツ系）（国立情報学研究所） 【テーマ】国内学協会のOA方針の公開と共有のために:SCPJデータベースの新機能紹介とSCPJスタッフのススメ
2010.6.22	大澤類里佐	平成21年度CSI委託事業報告交流会（コンテンツ系）（国立情報学研究所） 【テーマ】つくばサイエンスリポジトリの構築:コンテンツ構造化の試み
2010.8.24	大澤類里佐	第3回SPARC Japanセミナー2010 図書館の仕事を知る一学術雑誌の購読と利用一（国立情報学研究所） 【テーマ】SCPJの新たな展開 Part1
2010.8.26	嶋田　晋	東海地区大学図書館協議会 研究会集会 図書館の演出 ～クチコミしたくなる､この図書館に学ぶ～（名古屋外国語大学） 【テーマ】がまじゃんぱーと ちゅーりっぷさんの観察日記 ～筑波大学附属図書館でのキャラクター活用事例～
2010.10.7, 2010.11.11	関川　雅彦	平成22年度図書館職員短期研修（京都大学･東京大学） 【テーマ】図書館の資料構成と電子コンテンツ導入　（講師） 【レジュメ】http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/librarian/h22/lib09.pdf
2010.10.22	福井　啓介	平成22年度茨城県図書館協会情報サービス研修会（茨城県立図書館） 【テーマ】図書館の広報とマーケティング
2010.10.26	徳田　聖子	第8回ベルリン宣言記念オープンアクセス会議（北京:中国科学院国家科学図書館） 【テーマ】ひたひた:政策の不在とリポジトリマネージャーのリーダーシップ （Sliming in : the lack of policy, and the leadership of repository managers）
2010.11.8	大澤類里佐	平成22年度農学情報講座　機関リポジトリでどう変わる? 農林水産研究情報発信のために私たちができること（農林水産技術会議事務局筑波事務所） 【テーマ】電子図書館(Tulips)から　リポジトリ(Tulips-R)へ ～筑波大学の事例～ 【レジュメ】http://hdl.handle.net/2241/106689
2011.2.13	仲川　敦子	平成22年度茨城県図書館協会中堅職員研修会（茨城県立図書館） 【テーマ】図書館におけるボランティア活用について

3.職員研修会

2010 年度は、職員の資質向上と経験の共有を図るため計 3 回行いました。

日　時　・　場　所 テーマ	講　師	参加人数
第1回　2010.7.22　15:00～16:40　新館会議室		24人
●ラーニング･コモンズ　見学報告会	池内　　敦（図書館情報メディア研究科　准教授）	
第2回　2010.9.15　15:30～16:30　新館会議室		20人
●研修報告会		
リポジトリ研修を受講して	中山　知士（電子図書館係）	
「協同学習の理論と技法」について	福井　啓介（企画渉外係長）	
第3回　2011.1.5　15:00～17:10　集会室		37人
●館内WG報告 1. 2020ビジョン策定WG 2. ラーニング･コモンズ検討WG 3. ARESチーム	福井　啓介（企画渉外係長） 渡邊　朋子（図書サービス係） 嶋田　　晋（企画渉外係） 村尾真由子（相互利用係） 渡邊　雅子（レファレンス係長） 平田　　完（電子図書館係）	

第 1 回

第 3 回（発表資料）

6 トピックス

1.サービス・活動

日　付	内　容
2010.4.1	大塚図書館 神保町ビルにて開館 学協会著作権ポリシーデータベース リニューアル
2010.4.7	中央図書館本館3階4階 リニューアルオープン
2010.4.23	RefWorksのログイン方法変更(全学統一認証へ)
2010.6.25	Readingバトン-教員から筑波大生へのmessage- 開始
2010.6.30	附属図書館ボランティアによる留学生対象のおりがみ講習会を開催
2010.7.2 - (2011.4.21予定)	中央図書館本館5階 利用停止
2010.7.26	中央図書館本館5階の図書を同1階/中2階で利用開始
2010.10.4 - 29	平成22年度 附属図書館特別展「慈雲尊者と悉曇学-自筆本『法華陀羅尼略解』と「梵学津梁」の世界-」 開催
2010.10.9 - 11	学園祭で図書館情報メディア研究科の宇陀・松村研究室との共同企画 「近未来書籍カフェ」を開催 雙峰祭グランプリを受賞
2010.10.10	附属図書館特別展 特別講演会「慈雲尊者と悉曇学」開催(人文社会科学研究科 秋山学 准教授)
2010.12.1	附属図書館ボランティアによる留学生対象のおりがみ講習会を開催
2011.1.25 - 2011.3.31	電子ジャーナル等に関するアンケート実施
2011.3.9 - (2011.4.11 予定)	中央図書館1階・中2階の利用停止

2.見学・来訪者

日　付	内　容
2010.4.22	(韓国)弘益大学校他 4名
2010.5.24	(米国)ハワイ大学 Library School インターンシップ 2名
2010.6.10	(中国)高校生訪中団(日本中国友好協会) 56名
2010.6.11	(韓国)冠陽中学校(生徒) 45名
2010.6.18	(台湾)国立中山大学 12名
2010.6.23	(トルコ)イズミール経済大学 3名
2010.6.25	(韓国)ハンバツ大学 25名
2010.7.21	(中国)上海教育委員会及び中国の選抜大学生 26名
2010.7.27-29	オープンキャンパス 1,770名
2010.8.9	(中国)延辺大学 1名
2010.8.25	(韓国)梨花女子大学 4名
2010.9.9	(韓国)釜山大学 9名
2011.1.21	(フランス)グルノーブル経営学院 1名
2011.1.24	(中国)上海師範大学を中心とした訪日交流団 30名
2011.2.18	(韓国)釜山大学インターンシップ 13名

2.オリエンテーション・講習会

内　容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション(学群生)	11回	1,482名
新入生オリエンテーション(院生)	2回	47名
留学生オリエンテーション	13回	276名
フレッシュマンセミナー(各学類等)ほか	26回	884名
自由テーマオリエンテーション	7回	133名
論文の探し方講習会	11回	89名
新任教員オリエンテーション	2回	19名
授業「基礎科学実験」の2週分を担当(2010.5)		
授業「知の探検法」の4回分を担当(2010.12-2011.1)		

4.研修・シンポジウム

日　付	内　容
2010.5.24-5.25	国際インターンシップ（ハワイ大学　2名）
2010.7.5-7.16	平成22年度大学図書館職員長期研修　（受講生　36名）
2010.7.26-8.6	インターンシップ（筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類　4名）
2010.12.15	平成22年度関東甲信越地区国立大学図書館職員研修 （共催:平成22年度茨城県図書館協会大学図書館部会研修） 「シンポジウム学習支援:2020年これが図書館の生きる道」開催（参加者　85名）
2011.2.18	国際インターンシップ（釜山大学　13名）

5.会　議

日　付	内　容
2010.5.10　2011.3.17	附属図書館研究開発室運営会議
2010.5.14・7.2・9.30 2011.2.24・3.15	附属図書館運営委員会
2010.5.31・6.30・9.21	附属図書館収書専門委員会
2010.6.28・12.10	附属図書館ボランティア専門委員会
2010.7.8　2011.2.25	放送大学と筑波大学の合築に関する図書館WG

6.その他

日　付	内　容
2010.3.1 - 2012.8（予定）	東京キャンパス大塚地区校舎改築に伴い大塚図書館が仮校舎へ移転、4/1からサービスを開始
2010.8.1-2011.1.31	中央図書館耐震改修工事（第3期）
2010.11.4	大学機関別認証評価訪問調査
2010.12.8 - 2012.3.31	図書館情報学図書館にKumoriしおり設置
2011.3.2	中央図書館5階に防犯カメラ設置
2011.3.11 - 3.28	東日本大震災にて被災 臨時閉館
2011.3.29	体育・芸術図書館を除き、部分開館開始

メディアにみる附属図書館

1.学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日　付	掲載元	メディア	掲載内容
2010.4.7	筑波大学新聞　第284号	学内新聞	オピニオン面　反射鏡　今月のテーマ「私のおすすめスポット」日常忘れる図書館の中
2010.9.8	朝日新聞　朝刊	新聞	江戸中後期の名僧･梵語学の大家　慈雲の直筆筑波大に　「法華陀羅尼略解」など3点　来月、特別展で公開
2010.10.4	筑波大学新聞 第288号	学内新聞	附属図書館 慈雲の新資料見つかる 今月4日から公開 附属図書館特別展 慈雲尊者の自筆本公開 本学教員による講演会も
2010.10.18	茨城新聞 朝刊	新聞	地域面　慈雲の新資料発見　筑波大図書館　（29日まで特別展で公開）
2010.10.21	中外日報	新聞	筑波大学付属図書館の『法華陀羅尼略解』　秋山准教授確認　慈雲思想に新たな一面
2010.11.1	筑波大学新聞　第289号	学内新聞	雙峰祭特集　大賞　未来の図書館体験
2010.10.12	つくナビ	Web	http://www.tsukunavi.com/univ/sohosai2010_jigo/gakujutsu/ 雙峰祭 学術企画　「近未来書籍カフェ」
2010.10.15	メンターダイヤモンド	Web	筑波大学 雙峰祭2010③～グランプリ最優秀賞は近未来書籍カフェ! http://www.mentor-diamond.jp/blog/student/?p=19102
2010.12.1	紫峰会報　第123号	新聞	第36回筑波大学学園祭「雙峰祭」「近未来図書館カフェ」が最優秀賞を受賞

2.図書館の刊行物

筑波大学附属図書館年報2009年度	
平成22年度筑波大学附属図書館特別展	
慈雲尊者と悉曇学 自筆本『法華陀羅尼略解』と「梵学津梁」の世界（図録）	
Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)	
No.13 2010.4.1	メディアミュージアム常設展示(図書館情報学図書館)記録メディアの発達と図書館の変貌
特別号	2010Spring
No.14 2010.4.1	図情図書館ラーニングコモンズを開始
No.15 2010.4.7	4月7日中央図書館本館3階4階Renewal-Open
No.16 2010.4.9	レポート･論文を書く前に…使ってみよう、引用索引データベース
No.17 2010.4.16	新しくなった図書館Webサイトの特徴(Tulipsの活用法シリーズ1)
No.18 2010.5.13	Tulips-Warpを使ってみよう!!(Tulipsの活用法シリーズ2)
No.19 2010.6.25	スタート!Readingバトン 教員から筑波大生へのmessage
No.20 2010.8.4	Tulipsをログインして使おう!(1)(Tulipsの活用法シリーズ3)
No.21 2010.8.9	Tulipsをログインして使おう!(2)(Tulipsの活用法シリーズ4)
No.22 2010.9.30	他大学から文献取寄せ、Webでラクラク申込み(Tulipsの活用法シリーズ5)−利用登録編−
No.23 2010.10.29	近未来書籍カフェ 雙峰祭グランプリを受賞!
No.24 2010.12.13	引用文献･参考文献について
No.25 2010.12.24	「あったらいいな」と思ったら…学生希望図書を申し込もう!
No.26 2010.12.27	他大学から文献取寄せ、Webでラクラク申込み(Tulipsの活用法シリーズ6)−申込方法編−
No.27 2011.2.18	電子ジャーナルのアンケート実施中!
筑波大学附属図書館概要 2011	
筑波大学附属図書館利用案内2011	

2010年度発行
Prism Webサイト
アクセス数
No.1

8 所蔵・公開資料の記録

近未来書籍カフェ（雙峰祭での共催企画）

出版・放映・Web上に掲載された所蔵・公開資料

日　付	内　容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2010.5.20	出版	貴重	Joh. Amos Comenii Orbis sensualium picti pars prima [-secunda]	E100-c89	10076344069	「日本高校教育学会年報」第 17 号 2010.7.10
5.20	出版	和装古書	小中村博士草稿本	イ400-332	10076739921	「小中村清矩日記 / 大沼宜規」汲古書院 2010.7.15
5.20	出版	和装古書	信州海津ノ城ノ圖	ヨ150-38	10076879700	「週刊戦国武将データファイル 第 15 号」㈱デアゴスティーニ・ジャパン　2010.9.7
5.24	出版	貴重	北野社家日記 ：天正十九年自閏正月至三月	北野社	10003015182	「一個人」8 月号　㈱ベスト・セラーズ 2010.6.26
5.27	出版	和装古書	衣喰住之内家職長幼絵解之図　早朝の掃除	ヘ950-宮197	10088015217	「総合百科事典　ポプラディア」ポプラ社 2011.1.1
5.31	Web上での電子的掲載	和装古書	梅田村明王院	ヨ150-194	10076879866	明王院公式サイト http://www.akafudo.org
6.23	動画作成・放映	貴重	鯰絵19, 4, 2	726.1-N47	10084019139 外	CS 放送「時代劇おもしろ雑学虎之巻」平成 22 年 7 月 7 日―平成 22 年 8 月 4 日
6.29	出版	和装古書	富士見十三州輿地之全圖	ネ040-211	10076904196	「週刊 江戸」30 号 ㈱デアゴスティーニ・ジャパン　2010.8.10
8.12	出版	和装古書	君台観印譜	カ160-103	10076868746	"Painting of the Realm: The Kano House of Painters in Seventeenth-Century Japan / Yukio Lippit" University of Washington Press, 2011.10.1
8.18	出版	和装古書	新製輿地全圖	ネ040―384	10076904315	「かしこ」東京法規出版 http://www.thks.co.jp/cacico 2010.9.1
9. 3	出版	和装古書	野馬臺	ル185-797	10088015805	「歴史読本」2010 年 11 月号 2010.9.24
9.14	出版	貴重	体育論	ホ520-145	10076701259	「NHK 教育テレビテキスト『歴史は眠らない』10 月特集日本人の健康」2010.9.25
9.14	出版	貴重	宋揚輝算法, 7巻 新編算学啓蒙, 3巻	コ200-2 コ200-11	10076713848 10076713850	「朝鮮数学史 川原秀城著」東京大学出版会 2010.10
9.17	出版	和装古書	訂正増譯采覧異言	ネ900-4	10076909095	「週刊　江戸」41 号 ㈱デアゴスティーニ・ジャパン　2010.10.26
9.21	出版		官報（明治27年8月から明治28年4月まで）			「復刻版　官報　明治篇（明治 27 年 8 月―明治 28 年 4 月）」㈱龍渓書舎
9.28	出版	和装古書	兒學教導單語之圖 ; 五十音圖	ヘ950-宮203	10088015209	「近現代と神奈川」2011.3
9.28	出版	和装古書	芝高輪邊繪圖	ネ040-91	10076904453	「週刊　江戸」45 号 ㈱デアゴスティーニ・ジャパン　2010.11.23
10. 1	出版	和装古書	寛永十五戊寅歳八月十日家光公毛利秀元御茶会御饗應次第	ヨ216-275	10076746270	企画展「長府毛利十四代記」図録 2011.1.29―2.27 開催
10.26	出版	和装古書	西國諸家盛衰記	ヨ380-130	10076852574 外	「かがみ」第 41 号 2011.3.31
10.27	動画作成・放映	和装古書	新撰體操書	ホ520-宮578	10088015086	NHK 教育テレビ「歴史は眠らない 日本人の健康 2」2010.10.12
11.10	出版	和装古書	今戸箕輪淺草繪圖	ネ040-91	10076904444	「週刊　江戸」50 号 ㈱デアゴスティーニ・ジャパン　2010.12.28
11.10	出版	和装古書	文部省発行錦絵 ：衣喰住之内家職幼絵解之図等 ; 1 外	ヘ950-宮196	10088015236	「ニューボイス」国際交流基金 オンライン専門誌
12.24	展示パネル	和装古書	文部省発行錦絵 ：衣喰住之内家職幼絵解之図等 ; 1 外	ヘ950-宮196	10088015236	文教ふるさと歴史館
2.18	出版	貴重	北野社家日記 ：天正十九年自閏正月至三月	北野社	10003015182	㈱八木書店

※全33件から抜粋したものです。

9 附属図書館ボランティアの活動

1. 平成22年度ボランティア構成

●男性：12　●女性：38　　計50名

〈年齢内訳〉

●30代：2　●40代：7　●50代：13

●60代：24　●70代：4

●新規活動者 10名、●更新活動者 40名

2. 4階ボランティアカウンターが再開

第2期耐震改修工事終了により3階、4階が利用可能になり4階ボランティアカウンターを再開しました。これにより2階カウンターと併せてボランティアによる総合案内は2ヶ所となりました。

3. 活動統計

1　総合案内

●ボランティアカウンター利用者数　1,724 人

（学内者：1,435 人　学外者：289 人）

●図書館見学案内　105 件　2,513 人

2　利用環境整備・特殊資料整理

●シェルフリーディング数　4,842 連

中央図書館：4,411　体芸図書館：431

●不明図書の発見　15 冊

●ラベル補修　399 冊

（中央図書館：263　体芸図書館：136）

●図書修理冊数　812 冊

（中央図書館：444　体芸図書館：368 ）

3　体芸図書館ポスター整理　660 枚

4. 年間行事

1　フォローアップ研修

●業務紹介	7月
●学内見学（模擬法廷）	6月
●学外見学（東京大学総合図書館）	11月

2　意見交換会

●利用環境整備	9月
●総合案内	9月

3　ボランティア懇談会	10月
4　ボランティア講演会	10月

5. 職員によるミニレクチャー

毎年恒例のフォローアップ研修の一環として、職員によるミニレクチャーを実施しました。

●講師　古典資料担当専門職員　福島祐子

「古典資料を利用するには―ボランティアさんに知っておいてほしいこと―」

●講師　電子図書館係主任　徳田聖子

英国図書館修復保存センターワークショップに参加して

6. 海外からの見学者

●ボランティアが対応した海外からの見学者

・中国高校生訪日団	6月
・トルコ・イズミール経済大学	6月
・ハンバツ工科大学（韓国）	6月
・上海師範大学	7月、1月

7. 功労者に感謝状

10 月に開催された「ボランティア懇談会」において、10年以上活動を続けている功労者に対し、附属図書館長から感謝状と記念品が贈呈されました。

対象者は創設当時からの活動者6人を含む16人でした。

8. 対面朗読 ― 障害者支援として

毎週決まった曜日に利用するレギュラー利用と、予約によるスポット利用のサービスがあります。この対応には熟練した技能を持つボランティアが担当しています。単に資料を読み上げるばかりではなく、利用者の研究テーマや求める資料を把握し、的確に論文等を探すことから支援しています。

対応件数：60 件　対応時間：165 時間

（見学・ボランティア担当専門職員　仲川　敦子）

組織図・歴代館長

1. 組織図

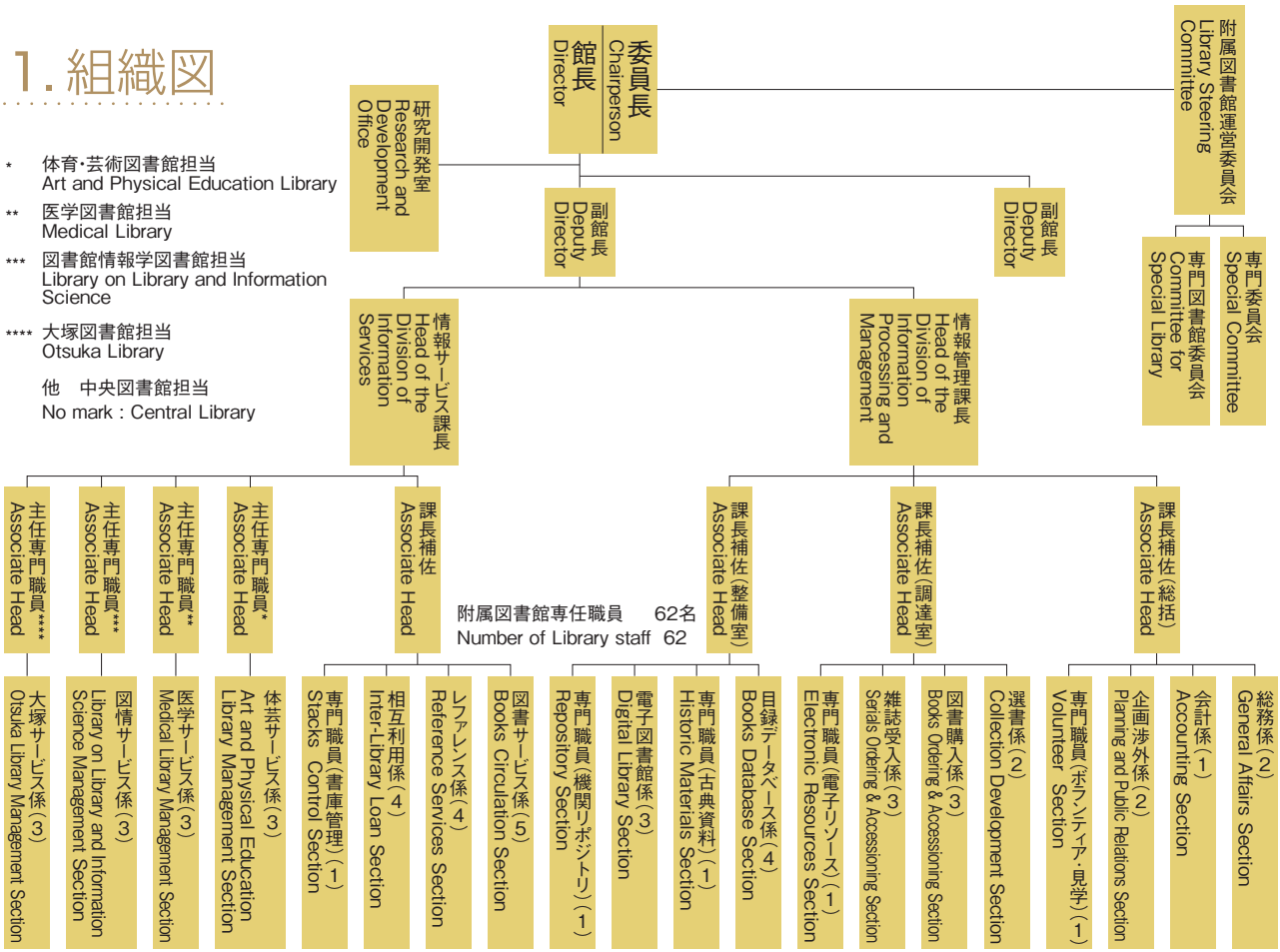
* 体育・芸術図書館担当
Art and Physical Education Library

** 医学図書館担当
Medical Library

*** 図書館情報学図書館担当
Library on Library and Information Science

**** 大塚図書館担当
Otsuka Library

他　中央図書館担当
No mark : Central Library



附属図書館専任職員　62名
Number of Library staff　62

（2010年4月1日現在）

2. 歴代図書館長

	名前	期間	備考
高等師範学校・東京高等師範学校	三宅　米吉	明治32年6月30日～明治36年9月6日	図書係事務監督
	三宅　米吉	明治32年9月7日　～明治44年4月29日	主幹
	松井　簡治	明治44年4月30日～昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井　簡治	昭和4年4月1日　～昭和7年3月3日	
	諸橋　轍次	昭和7年3月4日　～昭和20年10月3日	
	能勢　朝次	昭和20年10月4日～昭和24年5月31日	
東京教育大学	能勢　朝次	昭和24年6月1日　～昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日～昭和29年7月15日	
	中西　清	昭和29年7月16日～昭和31年3月31日	
	熊沢　龍	昭和31年4月1日　～昭和33年3月31日	
	熊沢　龍	昭和33年4月1日　～昭和33年4月30日	事務取扱
	熊沢　龍	昭和33年5月1日　～昭和35年4月30日	
	肥後　和男	昭和35年5月1日　～昭和38年3月31日	
	山崎　宏	昭和38年4月1日　～昭和40年3月31日	
	平塚　直秀	昭和40年4月1日　～昭和42年3月31日	
	酒井　忠夫	昭和42年4月1日　～昭和44年3月31日	
	宮嶋　龍興	昭和44年4月1日　～昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井　忠夫	昭和44年4月28日～昭和46年4月27日	
	橋本　重治	昭和46年4月28日～昭和47年3月31日	
	武藤　聡雄	昭和47年4月1日　～昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日　～昭和53年3月31日	

	名前	期間	備考
筑波大学	三輪　知雄	昭和48年10月1日　昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井　忠夫	昭和49年5月1日　～昭和50年4月1日	
	大饗　茂	昭和50年4月2日　～昭和52年4月1日	
	高橋　進	昭和52年4月2日　～昭和54年4月1日	
	宮嶋　龍興	昭和54年4月2日　～昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本　敬二	昭和54年6月9日　～昭和56年4月1日	
	高橋　進	昭和56年4月2日　～昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司　利男	昭和56年5月1日　～昭和60年3月31日	
	松浦　悦之	昭和60年4月1日　～昭和60年4月3日	事務取扱
	升田　公三	昭和60年4月3日　～昭和62年6月8日	
	柳沼　重剛	昭和62年6月9日　～平成元年6月8日	
	小川　圭治	平成元年6月9日　～平成3年3月31日	
	新井　敏弘	平成3年4月1日　～平成5年3月31日	
	北原　保雄	平成5年4月1日　～平成9年3月31日	2期
	斎藤　武生	平成9年4月1日　～平成11年3月31日	
	板橋　秀一	平成11年4月1日　～平成13年3月31日	
	山内　芳文	平成13年4月1日　～平成15年3月31日	
	林　史典	平成15年4月1日　～平成16年3月31日	
	植松　貞夫	平成16年4月1日　～平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日　～	

11 統計 2010(平成22)年度

利用統計

		中央図書館	体育・芸術図書館	医学図書館	図書館情報学図書館	大塚図書館	合　計
年間開館日数(日)	平日	227	224	227	227	233	
	土・日・祝日	86	86	107	112	101	
	合計	313	310	334	339	334	
入館者数(人)	平日	499,687	147,163	131,874	59,478	20,986	859,188
	(学外者　内数)	(25,864)	(2,991)	(6,835)	(4,458)	(447)	(40,595)
	土・日・祝日	66,511	17,669	37,508	9,067	7,669	138,424
	(学外者　内数)	(6,399)	(674)	(5,060)	(1,331)	(193)	(13,657)
	合計	566,198	164,832	169,382	68,545	28,655	997,612
	(学外者　内数)	(32,263)	(3,665)	(11,895)	(5,789)	(640)	(54,252)
平均入館者数(人)	平日	2,201	657	581	262	90	
	(学外者　内数)	(114)	(13)	(30)	(20)	(2)	
	土・日・祝日	773	205	351	81	76	
	(学外者　内数)	(74)	(8)	(47)	(12)	(2)	
	合計	1,809	532	507	202	86	
	(学外者　内数)	(103)	(12)	(36)	(17)	(2)	
貸出冊数(冊)	学群生	106,134	18,765	14,446	14,765	608	154,718
	院生	117,146	18,603	6,292	9,295	7,745	159,081
	教員	29,346	4,060	2,923	3,182	1,977	41,488
	学外者	4,222	679	608	1,032	151	6,692
	その他	657	0	29	0	0	686
	合計	257,505	42,107	24,298	28,274	10,481	362,665
貸出利用者数(人)	学群生	44,957	7,942	7,511	6,795	489	67,694
	院生	39,373	6,768	2,664	3,737	4,170	56,712
	教員	5,969	788	1,006	852	363	8,978
	学外者	1,975	321	282	515	80	3,173
	その他	81	0	8	0		89
	合計	92,355	15,819	11,471	11,899	5,102	136,646
文献複写(コピー)(件)	学外依頼	6,895	1,678	3,761	326	2,284	14,944
	学外提供	2,390	393	959	138	119	3,999
	学内遠隔地提供(紙)	844	199	340	205	373	1,961
	学内E-DDS	659	125	295	60	92	1,231
	合計	10,788	2,395	5,355	729	2,868	22,135
相互貸借(図書)(件)	学外借受	1,629	194	63	174	213	2,273
	学外貸出	2,173	186	45	116	28	2,548
	合計	3,802	380	108	290	241	4,821
レファレンス件数(件)	学生	14,271	4,240	2,530	948	5,541	27,530
	教職員	3,608	417	2,869	482	445	7,821
	その他	1,379	107	77	334	106	2,003
	合計	19,258	4,764	5,476	1,764	6,092	37,354
	資料に関するもの	12,464	2,559	4,807	711	4,871	25,412
	利用案内・指導	6,733	2,203	668	1,047	1,219	11,870
	事実に関するもの	61	2	1	6	2	72
	合計	19,258	4,764	5,476	1,764	6,092	37,354

電子図書館アクセス数

トップページアクセス件数	件
学内	599,476
学外	1,073,819
合計	1,673,295

つくばリポジトリアクセス件数	件
セッション数	279,123
ページビュー数	839,322

主要な電子ジャーナルアクセス件数(フルテキスト)	件
Elsevier(ScienceDirect)	424,715
Wiley-Blackwell(InterScience)	122,678
Springer(LINK)	75,420
Oxford University Press	28,340
Cambridge University Press	4,561
Nature Publishing Group	111,460

主要な文献情報データベースアクセス件数(サーチ数)	件
Web of Science	148,091
SciFinder	19,923
Journal Citation Reports	9,034
Business Source Premier	9,299
CiNii	789,059
医学中央雑誌	416,068

基盤統計

施設環境

	中央図書館	体育・芸術図書館	医学図書館	図書館情報学図書館	大塚図書館	合　計
建物面積(m²)	19,092	3,518	2,793	3,166	1,016	29,585
座席数(席)	1,012	347	349	227	156	2,091
利用者用PC台数(台)	158	71	75	33	14	351

※2011(平成23)年3月31日現在。

図　書

(冊)

		中央図書館	体育・芸術図書館	医学図書館	図書館情報学図書館	大塚図書館	合　計
図書の受入(和洋区分)	和書	11,407	2,938	1,882	3,194	1,743	21,164
	洋書	6,331	509	364	556	341	8,101
	合計	17,738	3,447	2,246	3,750	2,084	29,265
(受入区分)	購入	8,609	1,820	1,393	2,033	724	14,579
	寄贈	6,158	905	647	1,442	1,359	10,511
	製本	2,958	722	206	274	0	4,160
	その他	13	0	0	1	1	15
	合計	17,738	3,447	2,246	3,750	2,084	29,265
蔵書数(和洋区分)	和書	1,054,814	181,523	91,235	169,891	40,428	1,537,891
	洋書	776,752	65,450	80,938	72,494	14,880	1,010,514
	合計	1,831,566	246,973	172,173	242,385	55,308	2,548,405

雑　誌

(タイトル)

内訳	年度受入タイトル数			所蔵タイトル数
	購入	寄贈	計	
和雑誌	1,104	6,423	7,527	16,444
洋雑誌	1,573	1,038	2,611	12,769
合計	2,677	7,461	10,138	29,213

電子ジャーナル提供タイトル数

(*有料契約誌のみ)

内訳	タイトル数
Elsevier(ScienceDirect)	2,116
Springer(LINK)	1,802
Wiley-Blackwell(InterScience)	1,229
Oxford University Press	171
Cambridge University Press	231
JSTOR	932
Nature Publishing Group	34
ProQuest Central	9,700
その他	3,691
合計	19,906

つくばリポジトリ 累積登録件数

(*平成22年度末現在)

内訳	タイトル数
学術雑誌掲載論文	3,182
学位論文全文	1,688
学位論文内容・審査の要旨	6,005
紀要論文	12,191
研究成果報告書	1,218
会議発表資料	83
講義資料	8
研究業績目録	23
つくば3Eフォーラム	58
A-LIEP	62
その他(図書)	56
合計	24,574

提供データベース・検索ツール

●契約データベース

データベース名
Web of Science
Journal Citation Reports
SciFinder
Business Source Premier
LexisNexis
SportDiscuss
JapanKnowledge
Westlaw Japan
D1-Law.com
CINAHL
医学中央雑誌WEB
PsycINFO
ProQuest Dissertations & Thesis
ProQuest Central
FirstSearch
SourceOECD
AIDE(アジア経済研究所アーカイブ)
英国下院議会文書(HCCP)19/20世紀
BooksinPrint.com
Ulrichsweb.com
CiNii
MLA International Bibliography
雑誌記事索引集成データベース
官報情報検索サービス
JDream II
Powder Diffraction File
日経テレコン21

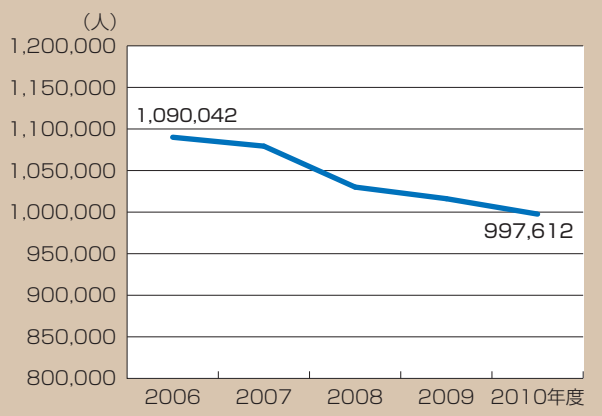
●学外への公開・発信

公開・提供内容
PPRBASE_捕食・寄生昆虫データベース
沖縄歴史文献データベース
応用動物昆虫データベース
日本美術シソーラスデータベース(試験運用版)
展覧会ポスターデータベース
SCPJ(学協会著作権ポリシーDB)
つくばリポジトリ
つくばWANサイエンスリポジトリ
茨城県遺跡資料リポジトリ

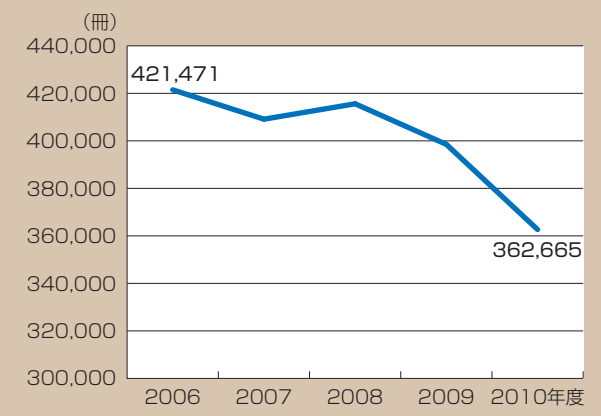
推移と分析

利用サービスの推移

●入館者数



●貸出冊数

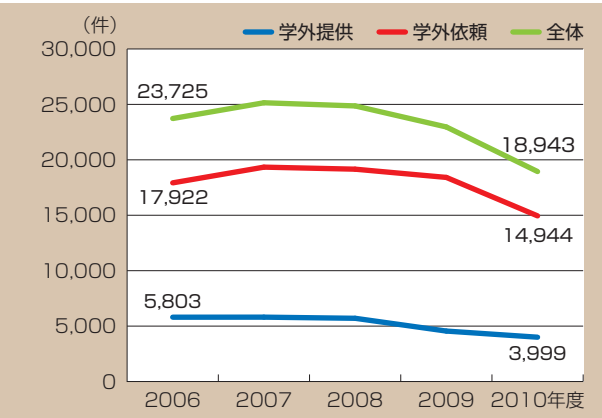


入館者数は、昨年度から全体で 18,540 人（約 1.9%）減少しています。東日本大震災の影響による休館により、前年実績から推計すると、約 25,000 人の入館者が減少したと思われます。震災がなければ、数年ぶりの入館者数の増加の可能性が高く、残念です。

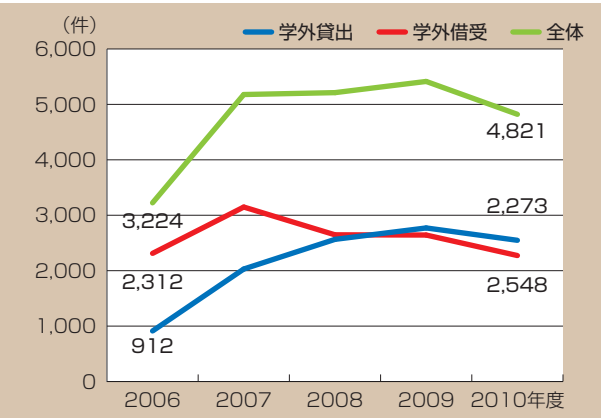
各館別では、中央図書館は昨年度に引き続き 2010 年度も耐震改修工事がありましたが、約 1%（約 5,000 人）の増加。図書館情報学図書館は約 21%（約 7 万人）の増加。改築工事中のため、仮校舎で開館中の大塚図書館は約 24%（約 5,600 人）の増加。一方、体育・芸術図書館は約 9% の減少、医学図書館は約 12% の減少となりました。中央図書館は改修が終わりに近づき、増加の兆しが見られ、図書館情報学図書館では、春日ラーニングコモンズの設置、大塚図書館は、仮校舎での立地が1階エレベータ前という条件が影響した事が伺えます。

貸出冊数は、入館者数に伴う形で約 36,000 冊（約 9.9%）減少しております。年々、図書の貸出利用が減っている現状が判ります。

●文献複写（コピー）件数



●相互貸借（図書）件数

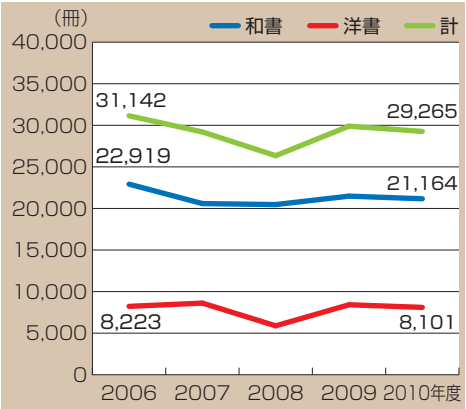


文献複写（コピー）件数は、昨年度と比較して学外への依頼と提供が共に減少しています。特に2010年度から、次ページにありますように電子ジャーナルの購読タイトル数の大幅な増加があり、学外への複写依頼数減少の要因として考えられます。

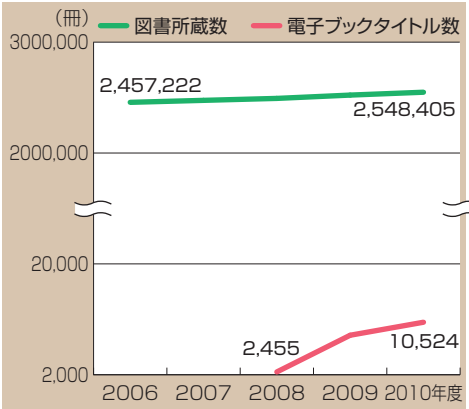
相互貸借（図書）件数も同じように学外への依頼と提供がともに減少しています。

図書資料受入の推移

●図書受入冊数　ー和洋区分ー



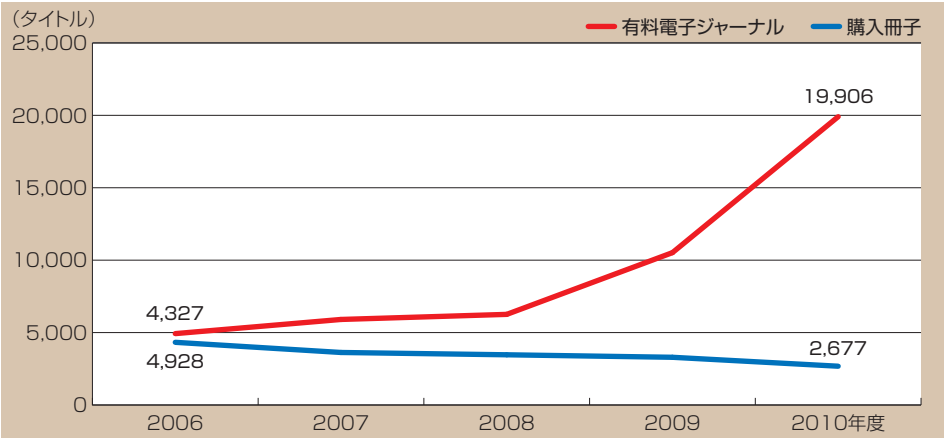
●図書所蔵数・電子ブックタイトル数



図書資料は、2010年度は、前年度結果より購入図書が640冊（約4%）減少しております。近年、電子的資料の拡充のため、電子ブックの購入も増加しており、紙から電子への移行が始まっていると思われます。

（※注 電子ブック導入は 2008 年度から）

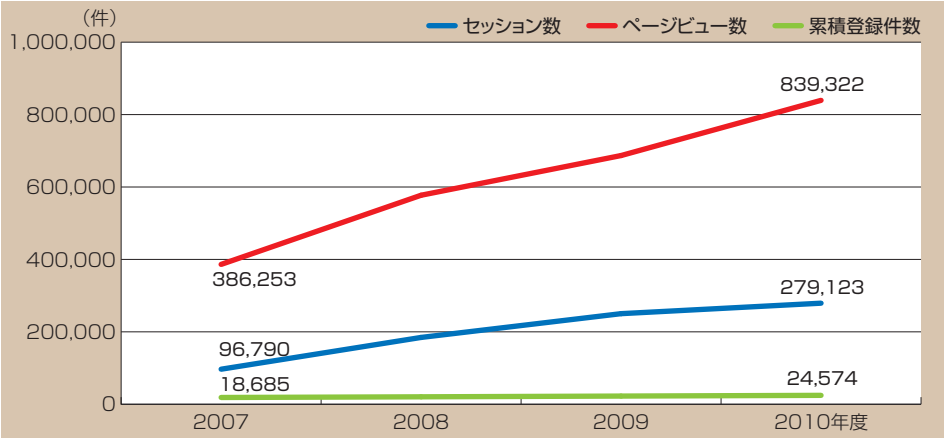
購入冊子と電子ジャーナルタイトル数の推移



2009年度から2012年度まで、本学共通経費による安定的な電子ジャーナルの提供が実現しました。2010年度は、ProQuest Central の導入したことに伴い、約1万タイトルが増加しました。

（※2009 年度統計より統計数値を整理するのに伴い、遡及的に過去の購入冊子数を修正しました）

つくばリポジトリ　登録件数と利用の推移

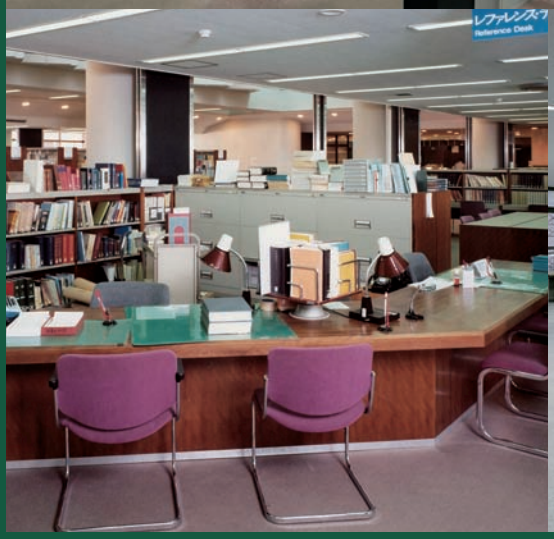


2010年度も登録・利用ともに順調に増加している様子がわかります。ページビュー数の増加の割合が高いことからも、コンテンツの充実により、1セッション当たりの利用数が増加したと見られ、4年目を迎えて利用者に認知され利用されている状況がわかります。

（※注 つくばリポジトリは 2007 年度より開始）

Tulips
University of Tsukuba Library

筑波大学附属図書館
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052
E-mail voice@tulips.tsukuba.ac.jp
URL http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/



UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2010

平成23（2011）年3月31日発行
デザイン印刷：マザータンク